

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
総務省技術基準適合品 特定小電力機器



DJ-PX7 Gシリーズ 詳細取扱説明書

注意 本機は別売のイヤホンと充電器が必要となります。ご使用になるときは背面のゴムキャップを取外し、「主電源」10番スイッチをオンにします。

アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本機は免許、資格が不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら誰でも用途を問わず、各種通信にお使いいただけます。

本機の性能を十分に発揮させるために、付属取扱説明書とあわせて最後までお読みいただくようお願いいたします。

This product is intended for use only in Japan.

アルインコ株式会社

安全上のご注意

◎ 本機を正しく安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用前にお読みください。使用者や周囲の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、次の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△注意	この表示は「人が傷害を負う、または物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

- * 重傷とは、けが、やけど、感電、骨折などの傷害で入院や長期通院をしたり、後遺症が残ったりするものを指します。
- * 傷害とは、治療に入院や長期通院の必要がないやけど、けが、感電などを指します。
- * 物的損害とは、家屋、財産、家畜及びペットなどにかかわる拡大損害を指します。

免責事項について

下記について法令上の賠償責任が認められた場合を除き、弊社は一切責任を負いません。

- 天災、人災、弊社の責任以外の火災、使用者の違法、故意、過失、取扱説明書の記載を守らないことを含む誤用、その他異常な条件下での使用により生じた事故と損害
- 本機の故障、誤動作、不具合、または停電などの外部要因にて生じる付随的な損害、不利益（通信できなかったことで生じた損失や事業の中断など）
- 本機の保証点検・修理を受ける際に発生する取外し、取付け費用、弊社が関与していない接続機器やソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害
- 故障や修理のために喪失した個別の設定内容やチャンネルのデータ、表面に施された装飾やカスタマイズ用に使われた製品

△警告

■ 使用環境・条件

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.
- 本機を人命救助などの目的で使用して、万一、故障、誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。
- 本機同士、または他の無線機器とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障、誤動作、不具合の原因となります。
- 本機を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作、不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。
- 指定以外のオプションや他社のアクセサリ製品を接続しないでください。故障の原因となります。
- 電子機器の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障、誤動作の原因となります。
- 内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では使用しないでください。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり各種機器が故障、誤動作する原因となります。
病院や医療機関では、医療機器などに支障がないか十分に確認の上、管理者の許可のもとご使用ください。
無線機器を使用したことによって、いかなる誤動作、不具合が生じても、弊社は一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 自動車などの運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。
- 第三者の通信を聞いて知り得た情報を無断で他人に話したり、公開したり、悪用すると電波法が定める通信の秘密保護条項に違反して罰せられます。

■ トランシーバー本体の取扱いについて

- 本機は調整済みです。特定小電力無線機器をユーザーが分解、改造、変更することは法律で禁止されています。
- イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因となることがあります。イヤホンに耳に装着する際、静電気が放電することがありますのでご注意ください。
- 本機は防爆構造ではありません。引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。静電気など発火事故の原因となります。
- 近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり中に入ったりした場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 本機は防水構造ではありません。水などで濡れやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。故障の原因となります。

■ 充電器の取扱いについて

- 指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC アダプターのコードをタコ足配線しないでください。過熱・発火の原因となります。
- 濡れた手で充電器の AC アダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 充電器の AC アダプターを AC コンセントに確実に差し込んでください。AC アダプターのプラグに金具などが触れると火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC アダプターのプラグに、ホコリが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災・感電・故障の原因となります。

■ 内蔵バッテリーについて（リチウムイオン電池）

- 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。バッテリーの性能や寿命が低下したり、充電できなくなったり、保護回路が破損したりして破裂、発煙、発火や火災、液漏れ、やけどの原因となります。
- 指定の充電時間を経過しても充電が完了しない場合は、直ちに充電を中止してください。充電を続けると、発煙や発火を起こす危険性があります。
- コンクリートなどの固い床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因となります。
- 購入時に比べ運用時間が極端に短くなったとき、バッテリーは寿命です。使用を続けると、発煙や発火の原因となります。
- 使用中や充電中にいつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。破裂、発熱、液漏れ、故障の原因となります。
- 満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。過充電状態となり、破裂、発熱、液漏れの原因となります。

■ 異常時の処置について

- 以下の場合、すぐに本体の電源を切り、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または弊社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は違法ですから、絶対におやめください。
 - 本体が熱くなったり、煙が出たとき。
 - 異音や異臭がしたとき。
 - 落としたり、ケースを破損したりしたとき。
 - 内部に水や異物が入ったとき。
 - AC アダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）
- 雷が鳴りだしたら安全のため本体の電源を切り、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■ 保守・点検

- 本体や充電器のケースは開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理はお買い上げの販売店または弊社サービスセンターにご依頼ください。

△注意

■ 使用環境・条件

- 直射日光があたるなど高温になる場所での使用、保管は避けてください。ケースが変形する原因となります。
- テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
- 直射日光があたる場所や炎天下の車内、車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災や故障の原因となります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 湿度の高い場所、ホコリの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
- マイク部にシール類を貼らないでください。相手に音声聞こえなくなります。
- イヤホンなどが汗や水で濡れたときは、拭き取ってください。水分がケーブルを伝って機器内部へ入ると故障の原因となります。
- 電波を使用している関係上、無線機器の通話は第三者による傍受を完全に阻止することはできません。通話の内容は第三者に聞こえるためご注意ください。
- グループトーク機能を使用する際、特定のグループ番号において従来製品との間で通話が途切れる場合があります。このようなときは違うグループ番号を選んで通話をお試しください。これはグループトーク機能に扱われるトーン信号の検出精度や仕組みが機種によって異なるためであり故障ではありません。

■ トランシーバー本体の取扱いについて

- イヤホン類で大きな音声を聴き続けていると聴力障害の原因となります。聴力に異常を感じたときはすぐに使用をやめて医師にご相談ください。
- 落下による衝撃や、水分、異物の混入などによる故障の場合は保証対象外になりますのでご注意ください。
- 静電気がたまりやすい場所や服装でイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合がありますが、漏電のような異常ではありません。
- 本機は使用していなくてもわずかな待機電流により電池が放電し、長期間放置していると電池が消耗し使用できなくなることがあります。長期間ご使用にならないときは安全のため本体の電源を切り、主電源をお切りください。
- アンテナ先端などの突起物が目や鼻などの傷つきやすい部位に当たらないようにご注意ください。
- ズボンのポケットに入れないでください。座ったときなどに無理な力が加わり故障する原因となります。
- 磁気カードを無線機器の近くに置かないでください。磁気カードのデータが消去されることがあります。

■ 充電器の取扱いについて

- 充電器の AC アダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC アダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器を長時間ご使用にならないときは安全のため AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

■ 内蔵バッテリーについて（リチウムイオン電池）

- 次の項目を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液漏れ、感電、火傷の原因となります。
 - 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
 - 水や海水につけたり、濡らしたりしないでください。
- 次の注意事項を守らないと、破裂、発熱、液漏れ、サビ、性能や寿命の低下の原因となります。
 - バッテリーを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。長期間バッテリーを保管する場合は、バッテリーを完全に使い切った状態から 1 時間程度充電した後、保管してください。
 - 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

■ 保守・点検

- 汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質するおそれがあります。洗剤などを直接無線機に吹き付けしないでください。機器内部に浸透し故障の原因となります。
- お手入れの際は安全のため本体の電源を切り、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。
- イヤホンなどをお使いのときは、ケーブルをときどき湿らせた布で拭いてください。汗や皮脂はケーブルを劣化させる原因となります。
- 技術基準適合証明ラベル及び製造番号ラベルをはがさないでください。製造番号がわからないと保証サービスをお受けいただくことができません。

■ 電磁ノイズ

インバーター回路を内蔵している電子機器およびハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズの影響を受けて、正常に動作できないことがあります。

例：● LED 照明機器 ● 電磁調理器 ● 給湯器 ● 自動車の電子機器 ● 太陽光発電装置 など

■ アフターサービスについて

◎ 保証と保証書

修理やメンテナンスなど、保証の詳細は販売店とお客様の間の契約が優先されますのでご購入時によくご確認ください。弊社の製品保証の内容は弊社発行の保証書に記載されています。保証書には購入店名、購入日の記入と、記載の製造番号に間違いがないかをお確かめの上、本書と一緒に大切に保管してください。記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類と一緒に保存してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。

◎ 保証期間が過ぎたら

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。アフターサービスや製品に関するよくあるご質問は「アルインコ 電子 FAQ」をキーワードにネット検索してください。ご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

◎ 製造終了製品に対する保守年限に関して

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をご使用いただけるように最低限必要な補修用部品を常備しています。ただし、不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

補修部品の保有期間は、生産終了後5年です

◎ 注意事項

- 改造、分解されたり銘板やラベル類が剥がされたりした製品は、技術基準適合から外れるため、修理をお断りすることがあります。
- 修理見積や保険用の証明書の発行は、一部有償です。
- 本機には明確に定められた製品寿命はありません。
- 樹脂成型時に細いラインが入ることがありますが、異常ではありません。
- 印字について美観上の問題が無い範囲でわずかなムラがあります。
- 使用条件によって端子部が変色することがあります。異常ではありませんが、乾いた清潔な布や綿棒で拭いて清掃してください。充電不良などの原因となります。
- 静電気が溜まりやすい場所や服装で別売のイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合があります。ドアノブなどに触れて感じるようなショックと同じで、漏電のような異常ではありません。
- 付属品、および弊社指定のオプション品以外のアクセサリを接続して使用すると故障や動作不良の原因になることがあります。他社製品をご使用になったの不具合は保証期間に関わらず、製品保証の対象外です。他社製品を本機に使うための改造サービスは有償、無償にかかわらず行っておりません。

- 本機を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用しないでください。事前の個別契約が無い限り、誤動作、不具合や損害が生じて一切の責任は負いかねます。
- 製品の保証の詳細は同梱の保証書に記載されています。別売のアクセサリーと一緒に求められても、保証書が同梱されていないアクセサリーは製品保証の対象に含まれません。

■ 充電式電池のリサイクル

- 本機は充電式電池使用機器です。内蔵電池の交換は販売店にご相談いただくか、本書の「アフターサービスについて」をご参照のうえ弊社サービスセンターにご相談ください。
- 廃棄の際は住まいの地域の「充電式電池内蔵小型家電」のルールに従ってください。



■ 電波法

- ◎ 本機は電波法に基づいて、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた製品です。分解したり改造したりすると罰せられます。「技適マーク」は製品内部に印字しています。



- ◎ 本機に貼付されたラベル類は重要です。次のことにご注意ください。
 - 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は一切絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術適合の基準から外れ、違法機器とみなされることがあります。
 - ラベル類が隠れるように他のシールやステッカーが貼り付けられていたら、修理の際に弊社サービスセンターで破棄させていただきます。ラベル類の印字が薄れてきた場合はお買い上げいただいた販売店か弊社サービスセンターにご相談ください。
 - ラベル類が意図的に手を加えられていると判断した場合、修理をお断りすることがあります。不法無線局開設の補助に該当するためですのでご了承ください。
- ◎ 他人の通信を妨害したり、知りえた内容を通信者の許可なく第三者に伝えたり、自身で利用したり、メディアに公用したりすると罰せられます。
- ◎ 電波行政の違いから使用できるのは、日本国内に限られています。
- ◎ 心臓ペースメーカーや補聴器を使用している人の近くで、本機を使用しないでください。電波妨害により機器が誤作動すると大変危険です。

機能と特長

- 小型ながら本格的な特定小電力トランシーバー「ラペルトーク」シリーズです。
- コンパnder、VOX、エンドピー、PTT ホールド、送信禁止、イヤホン断線検知、コールバック(自声モニター)など定番の機能をもれなく搭載しました。

ご使用になる前に

■ 使用環境

高温、多湿、直射日光が当たり短時間でも危険温度になるところは避けてご使用ください。

■ 分解しないで

特定小電力無線機の改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けたりすることは絶対にしないでください。

■ 使用禁止場所

本機は微弱電波の特定小電力無線装置ですが、無線機器の使用が制限される場所では事前に管理者の許可を得てください。

例：航空機内、空港敷地内、公共交通機関内、医療・高齢者施設など

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。

This product is intended for use only in Japan.

■ 通信距離の目安（ラベルトーク同士、中継無し）

通話できる距離は周囲の状況や取付け方によって大きく異なります。

- 河原など障害物のない平地、見通しのよい道：200m 程度
- 市街地や住宅街など障害物が多いところ：50～100m 程度
- 店舗などの建屋内：30～50m 程度

注意

- 建屋内の縦階層間の通話はフロアが障害物になるため、直線では数十メートルの近距離であっても通信できないことがあります。このような場合では中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
- 人体を含む障害物やアンテナの向き、歩行など移動による影響を受けると通話距離は半分程度まで短くなることがあります。
- トンネルのような閉鎖空間ではUHF電波伝搬の特性により近距離でも通話できないことがあります。

目次

安全上のご注意.....	2
機能と特長	6
ご使用になる前に.....	6
1. 特定小電力無線の通信制限について.....	9
2. 付属品	9
3. お使いになる前に（内蔵バッテリーについて）	10
4. 充電器（別売）	10
5. 各部の名称とはたらき	13
6. 基本操作.....	15
7. 交互通話.....	16
8. 中継通話.....	17
9. 連結中継モード.....	18
10. 受信音ミュート.....	23
11. エアクローン.....	26
12. 呼出音（コールトーン）	27
13. グループトーク機能	27
14. 減電池お知らせ	27
15. イヤホン断線検知機能	27
16. リセット.....	28
17. セットモード.....	28
18. 拡張セットモード	32
19. アプリ設定.....	36
20. ACSH（アクシュ）	45
21. 中継器リモコン	47
22. 故障とお考えになる前に	50
23. オプション一覧.....	50
24. 生産終了品に対する保守期限	50
25. 定格	51
26. メンテナンス.....	51

1. 特定小電力無線の通信制限について

特定小電力無線機の通信に関する制限事項について説明します。

1-1. 3分制限(3分以上は連続で送信できません)

通信時間が合計 3 分になると自動的に送信は停止します。送信停止 10 秒前に警告音が鳴ります。チャンネルを独占させないための機能です。

注意 3 分の通信時間制限により自動的に通信が停止したあとは、約 2 秒間たたないと送信できません。

1-2. キャリアセンス(受信中は送信できません)

一定の強さ以上の信号を受信しているときは PTT キーを押しても送信できません。受信中に PTT キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。混信や妨害を与えないための機能です。

注意 「ビープ音+ガイダンス音量」(P.29)をミュートオンに設定している場合、アラーム音は鳴りません。

2. 付属品

付属品をご確認ください。

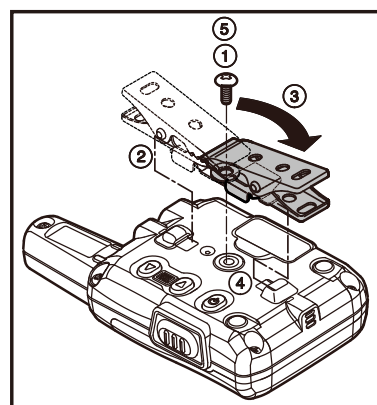
☐クリップ+ネジ 1 本(本体装着済) ☐ストラップホルダー ☐簡易取扱説明書 1 枚 ☐保証書

注意

- 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。
- 本機の保証は、本機と付属品だけに適用されます。
- 弊社純正、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。他の無線機メーカー製オプション品が使えるかどうかは検証していません。他社製アクセサリに関する事は、直接その製品のメーカーにお問い合わせください。

■クリップの取外し/取付け

本機のクリップは装着済みですが、使用する向きに応じて付け替えることができます。クリップを逆向きに取付ける場合はネジを取外し①～⑤の順番で取付けてください。付属品以外のネジを使うと無線機本体が破損します。
規格以外のネジは使用しないでください。



ストラップホルダー

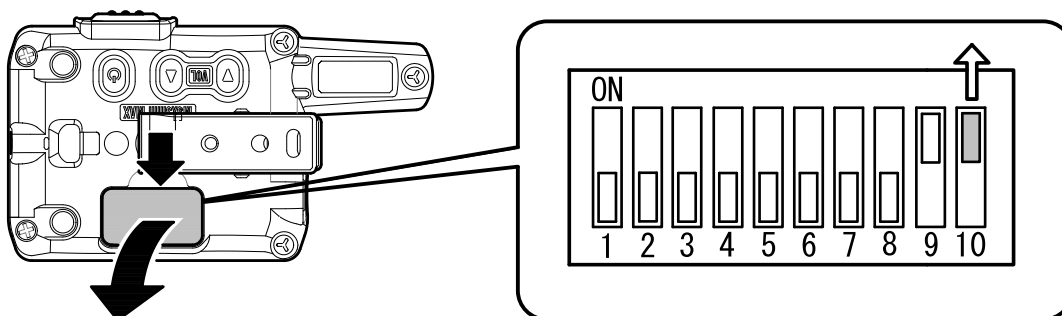
市販のストラップをお使いになる際は、クリップを取外し、ストラップホルダーに付け替えてください。ストラップを突起物に引っかけたり、シュレッターのような機器に巻き込まれないよう注意してください。けがの原因となります。

注意

- 標準付属品以外のねじを使うと、無線機本体が破損します。規格以外のねじはご使用にならないでください。
- 本機はアンテナを上に向けて装着するのが基本です。マイクが2個搭載 (P.13参照) されており、上下逆に装着することもできます。9番スイッチを切り替えて使用するマイクを選択します。
- 定期的にクリップのネジにゆるみがないか点検してください。クリップは消耗品です。保守部品 (EBC-48) として販売しています。お買い求めの際は販売店にご相談ください。

3. お使いになる前に（内蔵バッテリーについて）

本機にはリチウムイオンバッテリーが内蔵されていますが、出荷時には十分に充電されていません。ご使用前に主電源（10 番スイッチ）を入れ、別売オプションの充電器で満充電してください。スイッチの切り替えには先端が鋭利ではないものをお使いください。設定完了後はゴムキャップを元どおりに取付けてください。



- 注意**
- 本機をしばらくご使用にならないときは安全のためや、リチウムイオンバッテリーの劣化防止のため主電源（10 番スイッチ）をオフにしてください。
 - 長期間保管される場合は内蔵バッテリー劣化防止のため、放電させてから 1 時間ほど充電してください。リチウムイオンバッテリーは 50% 程度の充電状態が保存には最適です。主電源（10 番スイッチ）はオフにしてください。
 - リチウムイオンバッテリーは正しく使っていても経年劣化し、古くなると発熱発火のリスクが高くなります。3年を目安、長くて5年以内に販売店または弊社サービスセンターに内蔵バッテリーの交換をご依頼ください。

4. 充電器（別売）

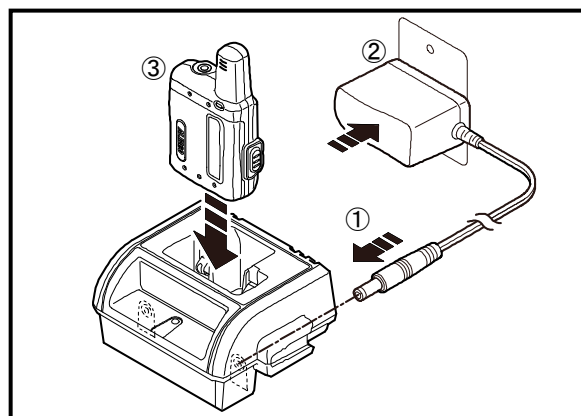
別売の充電スタンドを使用した充電方法を説明します。

- シングル充電器セット : EDC-207A (AC アダプター付属)
- 連結充電スタンド : EDC-207R (連結ケーブル付属)
- 5 口充電スタンド : EDC-208R
- 連結用 AC アダプター : EDC-162 (EDC-208R 専用)

- 注意** 充電するときは本機の電源（電源キー）を切ってください。電源を入れたままだと満充電にならないことがあります。

4-1. シングル充電器セット(EDC-207A)の使用方法

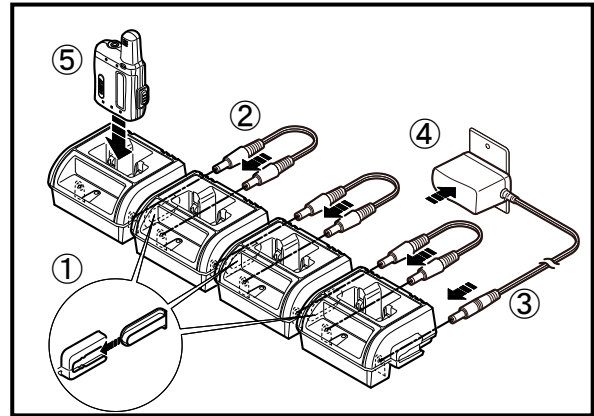
- ① AC アダプターのプラグを充電スタンド裏面にある、いずれかのジャックへ接続します。
- ② AC アダプターを家庭用コンセント（AC100V）に接続します。
- ③ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが点灯します。
- ④ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが点灯します。



4-2. 連結充電スタンド(EDC-207R)の使用方法

シングル充電器に連結充電スタンドを 3 台まで接続し、最大で 4 台のトランシーバーを同時に充電できます。

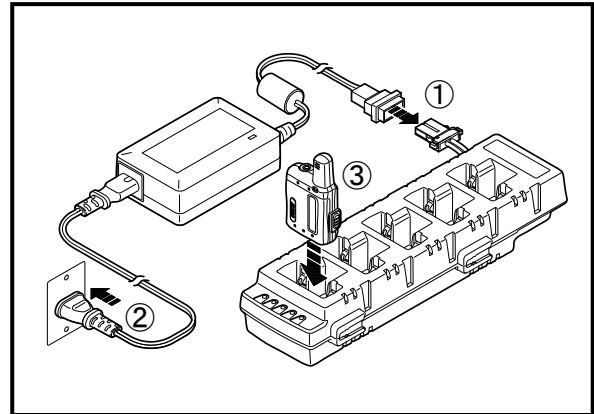
- ① 充電スタンド同士を連結します。
- ② 充電スタンド裏面のジャックに連結ケーブルを接続します。
- ③ AC アダプターのプラグを端の充電スタンド裏面のジャックへ接続します。
- ④ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
- ⑤ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが点灯します。
- ⑥ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが点灯します。



4-3. 5 口充電スタンド(EDC-208R)の使用方法

1 台の充電器で最大 5 台のトランシーバーを同時に充電できます。

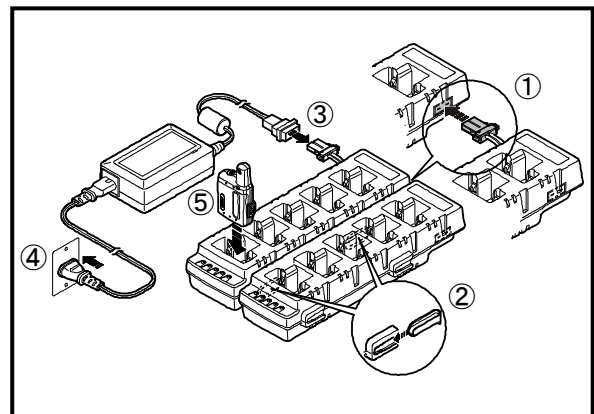
- ① 充電スタンドと連結用 AC アダプター (EDC-162) のコネクターを接続します。
- ② 連結用 AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
- ③ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが点灯します。
- ④ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが点灯します。



4-4. 5 連充電スタンド(EDC-208R)の連結使用方法

5 口充電スタンドを 2 台接続し、最大で 10 台のトランシーバーを同時に充電できます。

- ① 充電スタンド裏面のコネクターを接続します。
- ② 充電スタンド同士を連結します。
- ③ 一端の充電スタンドと連結用 AC アダプターのコネクターを接続します。
- ④ 連結用 AC アダプターを家庭用コンセント AC 100V へ接続します。
- ⑤ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが点灯します。
- ⑥ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが点灯します。
- ⑦ スタンドの連結を切り離す場合は、断線を防ぐために先に裏面のコネクターを抜いてください。



注意

- 本機及び充電器の充電端子はときどき乾いた布で掃除してください。汚れていると接触不良の原因となります。
- 本機をいずれかのポケットに挿入すると赤色ランプが点灯するが別のポケットに挿入すると緑色ランプが点灯する、またはその逆の動作をすることがあります。充電開始・完了を決定する回路の個体差により、このような動作をすることがありますが異常ではありません。
- 主電源を入れていない状態で充電器に挿入すると赤色・緑色ランプが点灯することがありますが、一時的に微小な電流が流れるためであり異常ではありません。充電する際は、主電源が入っていることを確認してください。

■すでに特定小電力トランシーバーをお使いの時は...

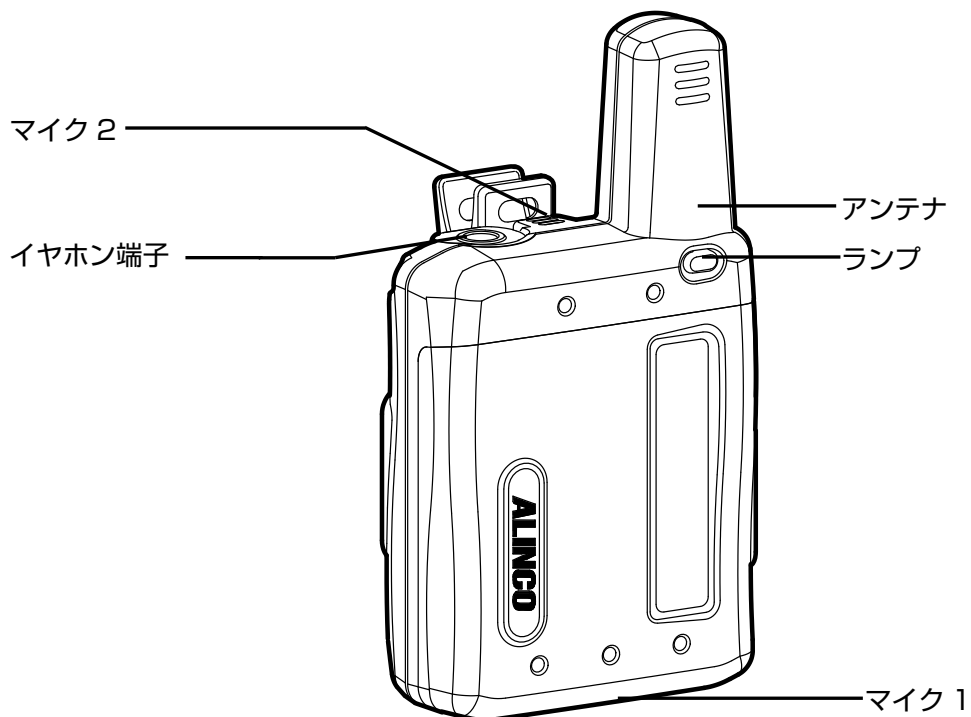
既に交互通話と中継通話で特定小電力トランシーバーをお使いなら、そのチャンネルとグループ番号を自動検出して、本機に同じものを設定できます。複数台を同時に設定することもでき、導入時の設定作業を大幅に省略できます。前項の充電を済ませてから、「20 ACSH（アクシュ）」（P.45）をお読みください。

※ 無線連結中継の設定には ACSH モードは対応しません。

5. 各部の名称とはたらき

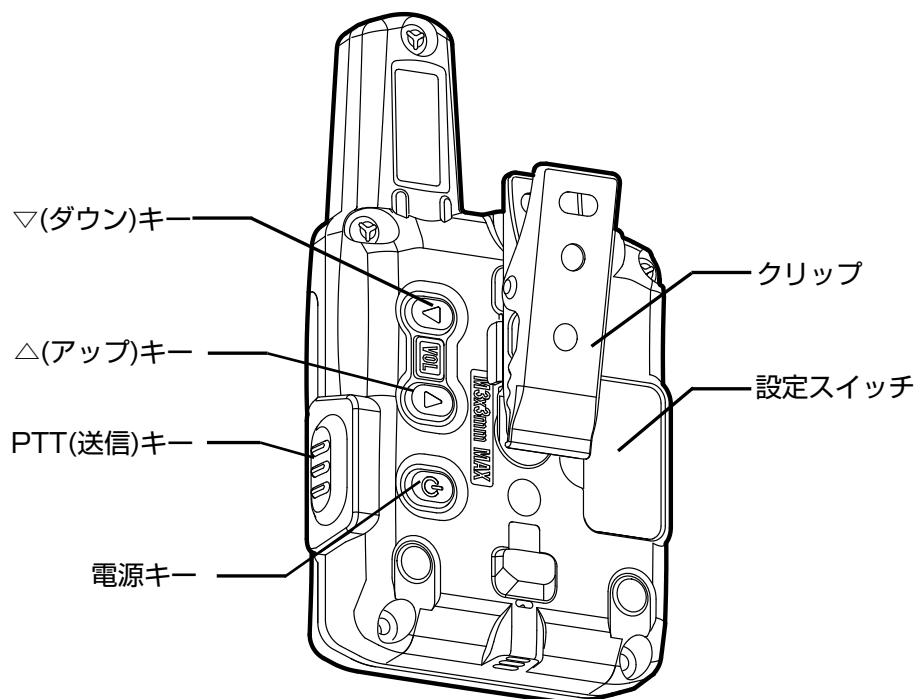
前面部

本機には上下に 2 個のマイクを搭載しています。お使いになる無線機の向きに応じて背面部の設定スイッチの 9 番を切り替えてください。



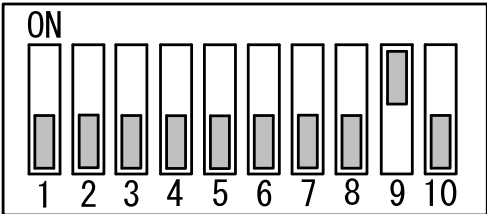
背面部

出荷時、設定スイッチは 9 番以外がオフになっています。ご使用になる際は、主電源（10 番スイッチ）をオンに切り替えてください。



名 称	説 明
PTT(送信)キー	送信する間は押し続けます。 離すと受信待受けに戻ります。
電源キー	約 2 秒間押しして電源をオン/オフします。 電源オン中に短く押すと CH とグループ番号を音声でガイドします。
マイク 1	出荷時には選択されていません。9 番スイッチを切り替えてここに向かって話します。
マイク 2	出荷時にはこちらが選択されています。ここに向かって話します。
ランプ	各状態を表示します。 赤色点灯 : 送信中 緑色点灯 : 受信 青色点灯 : 受信待受け、送信中 青色点滅 : バッテリー電圧低下 赤色緑色交互点灯 : イヤホン断線 青色緑色交互点灯 : ACSH モード ※色の見え方は LED の個体差により異なる場合があります。
△(アップ)キー	音量を上げるときに押します。また、各設定項目の変更時に押します。
▽(ダウン)キー	音量を下げるときに押します。また、各設定項目の変更時に押します。
設定スイッチ	ゴムキャップを外し、スイッチを操作します。 設定完了後はゴムキャップを元どおりに取付けてください。
イヤホン端子	別売のイヤホンを接続します。イヤホンプラグ(Φ3.5)を接続するときにはしっかりと奥まで挿入してください。中途半端に挿入して使用すると誤動作をします。そのまま使用を続けると故障の原因になります。 汗やしぶきでぬれたらこまめに乾拭きしてください。抜き挿しするときには本機に水分が入ると故障の原因になります。
クリップ	取外し/取付け方法は「クリップの取外し/取付け」(P.9)を参照ください。

設定スイッチの機能一覧

項目		初期値	設定スイッチ
1	交互通話/中継通話	オフ (交互通話)	
2	グループトーク	オフ	
3	PTT ホールド (送信保持)	オフ	
4	VOX (音声検知送信)	オフ	
5	ビープ音+音声ガイダンス	オフ (ミュートオフ)	
6	コンパnder (雑音低減)	オフ	
7	エンドピー (送信終了音)	オフ	
8	コールバック (音声モニター)	オフ	
9	マイク選択	オン (マイク 2)	
10	主電源	オフ	

6. 基本操作

6-1. ご使用になる前に

● 内蔵バッテリー

内蔵のリチウムイオン電池は出荷時、十分に充電されていません。
ご使用前に主電源（10 番スイッチ）を入れ、別売オプションの充電器で満充電してください。

● イヤホンの接続

電源を入れる前に弊社製純正オプションのイヤホンを正しく接続してください。プラグをしっかりと奥まで差し込んでください。
正しく接続できていなければ、起動しなかったり、「イヤホン断線検知機能」(P.27)が働く場合があります。

6-2. 音声ガイダンス

本機はチャンネルやグループなどの設定内容、及び各状態を音声ガイダンスでお知らせします。本書では音声ガイダンスが動作することを「鳴ります」と表記しています。

注意 設定スイッチの5番スイッチをオン側にしている場合、音声ガイダンスや操作音は鳴らなくなります。

6-3. キー操作

「キーを押す」とはしっかり押した後、すぐに離すことを指します。
「キーを長押し」とは約 2 秒間押し続けることを指します。

6-4. 電源のオン/オフ

● 主電源を入れる

ゴムキャップを外し、10 番スイッチをオンにします。

● 電源を入れる

電源キーを長押しします。ランプが青色点灯し、チャンネルとグループが鳴ります。電源を切るときも同じ操作で「ププ」音が鳴り消灯します。

参考 電源が入っているときに電源キーを押すと、チャンネルとグループが鳴り、設定内容を確認できます。後述の「お知らせ機能」(P.35) がオンのときは設定内容のガイダンスは鳴りません。

6-5. 音量を調整する

▽/△キーを押すと「ピッ」という音が鳴り音量が切り替わります。キーを押し続けると連続して音量が切り替わります。▽/△キーを同時に押して離すと「ザー」というノイズが鳴り音量調節の目安となります。適切な音量に調整してください。

注意 イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。音量を大きくし過ぎると聴力障害の原因となるおそれがありますので、小さい音から徐々にあげて調整してください。

6-6. 送信する

PTT キーを押すと送信を開始します。話している間は押し続け、送信が終わったら離して受信待受けに戻ります。送信中はランプが赤色点灯します。

7. 交互通話

一人が話す音声を残し全員が受信します。複数の人が同時に送信することはできません。電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。本機または交互通話対応の特定小電力無線機を複数台使用した通話が可能です。

7-1. 通話方式を設定する

設定スイッチの1番スイッチをオフ（交互通話）に設定します。

7-2. チャンネルを合わせる

交互通話用チャンネル 20 チャンネルの中から使用するチャンネルを選択できます。交互または中継であるかは、1 番スイッチの設定で選択できます。（中継通話の際は別途中継器が必要です）

△キーを押しながら電源を入れます。「チャンネルを選択してください」が鳴ったら▽/△キーを押してチャンネルを選択します。設定したチャンネル番号が鳴ります。



参考

1 番スイッチをオフで初期化したときは、交互チャンネルL01になります。1 番スイッチをオンで初期化したときは、中継チャンネルL10になります。

7-3. 受信する

信号を受信するとランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の声が聞こえます。



参考

本機にはテールノイズキャンセラー機能を搭載しており、受信終了時の「ザッ」というノイズが低減されています(テールノイズキャンセラー機能を搭載した機器間の通話においてのみ有効)。

7-4. 送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。ランプが赤色に点灯し送信が始まります。[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。マイクと口元は約 5cm 離してください。

注意

一定の強さ以上の信号を受信しているときはキャリアセンスがはたらき、「プププ」と警告音が鳴り送信できません。受信信号がなくなり、ランプが緑色から青色に変わったら送信できます。5番スイッチがオンの場合、警告音は鳴りません。



参考

中継通話も同様にPTTキーを押し続けます。「ピピ」音が鳴って中継器にアクセスします。そのままPTTキーを押しながらマイクに向かって話します。（別途中継器が必要です）

8. 中継通話

直接では電波が届かない相手と別売の中継器を介して交互に通話できます。

電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。中継器を介して、本機または中継通話に対応した特定小電力無線機を子機として、複数台使用した通話が可能です。

8-1. 通話方式を設定する

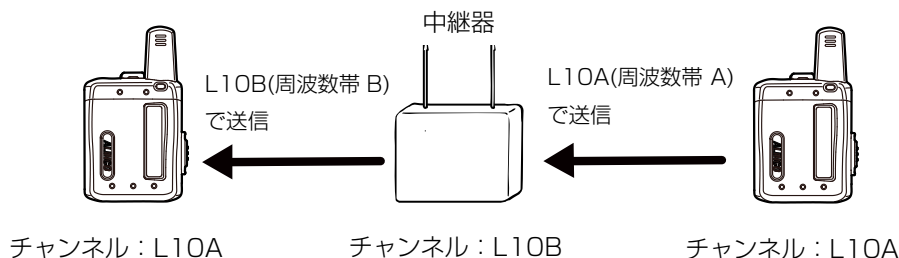
設定スイッチの1番スイッチをオン（中継通話）に設定します。

8-2. チャンネルを合わせる

中継通話用チャンネル 27 チャンネルの中から使用するチャンネルを選択できます。交互または中継であるかは、1番スイッチの設定で選択できます。（中継通話の際は別途中継器が必要です）

△キーを押しながら電源を入れます。「チャンネルを選択してください」が鳴ったら▽/△キーを押してチャンネルを選択します。設定したチャンネル番号が鳴ります。

例：子機(DJ-PX7G)のチャンネルをL10Aで運用する場合



8-3. 受信する

信号を受信するとランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の声が聞こえます。

8-4. 送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。ランプが赤色に点灯し、送信が始まります。[PTT]キーを押して「ピピッ」音が鳴ったら、[PTT]キーを押したままマイクに向かって話します。

注意 それぞれの機器が至近距離にあると誤動作することがあります。子機－中継器間、子機－子機間は10m以上離してください。

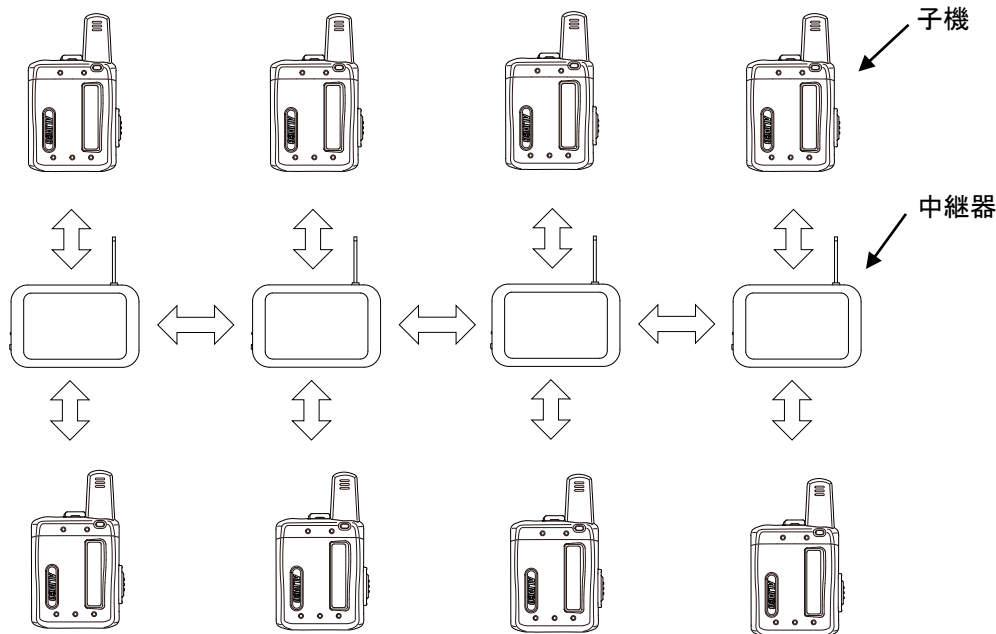


参考

- ご使用になる中継器の設定をご確認ください。中継器にグループトーク機能が設定されている場合は、本機にも中継器と同じグループ番号を設定してください。
- 本機は中継器のリモコンとして、中継器のチャンネルなどを遠隔で設定できます。詳しくは「中継器リモコン」(P.47)を参照ください。

9. 連結中継モード

本機は中継器を複数台使って通話エリアを拡大する連結中継の子機として使用できます。中継器は連結中継モード対応の製品(DJ-P113R など)をお使いください。最大 4 台の中継器を無線連結させて通話距離を大きく伸ばすことができます。本機は自動で最寄りの中継器を判別するため、チャンネルを変更する必要はありません。また、中継エリア内を移動しても設定を切り替える必要はありません。本機をリモコンとして使用し、連結中継器に対して設定を行うことも可能です。



9-1. 連結中継モードに設定する

- ① 本機（以下、子機）の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「ブブブ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、
「▽ → △ → 電源 → 電源 → 電源」の順番で押すと
「連結中継モード チャンネル **」が鳴り連結中継モードに入ります。



参考

- 電源キーを押すとチャンネルグループや中継器番号が鳴ります。
- 通常の通話モードに戻す場合は、リセット（初期化）し工場出荷状態に戻してください。
- 連結中継モードでは通常の通話モードとは設定スイッチの割り当てが異なるので、「9-9.設定スイッチ表」をご参照ください。

注意

- 送信中は、各キー・スイッチ操作による設定情報の確認や変更はできませんのでご注意ください。
- 連結中継の子機は最適な中継器を探して常にスキャン動作をするため、バッテリーセーブ機能は動作しません。
- 連結中継通話は本機のような専用の無線機が必要です。一般的な中継通話対応無線機では設定も通話もできません。
- 中継器の設定や設置に関する説明は中継器の取扱説明書をご参照ください。正しく設置されないと誤動作します。

9-2. 音量

連結中継モード中に▽/△キー操作で音量を30段階変更できます。

注意

- 1 番スイッチオンの場合は、チャンネルグループが優先されるため音量変更ができません。

9-3. 設定モード

連結中継モード中に▽/△キーを同時に押すとランプが点滅し設定モードに入ります。
中継器リモコンとして中継器に設定内容を送信する設定値も、ここで設定します。



電源キーを押すと選択されている各設定項目名と設定値が鳴ります。また下記以降1・2・4・5・7番スイッチの操作でも同様に鳴り設定変更できます。

注意

- 「9-4.設定項目」以降の設定スイッチで1・2・4・5・7番が複数オンしている場合は、誤動作を防ぐため自動的に「1.中継器番号」の設定項目になります。
- 設定モードでは1・2・4・5・7番のスイッチを使用します。それ以外は設定変更できません。設定完了後は2・4・5・7番スイッチ以外を使用してセットモード（P.28）での設定変更できません。

1. 中継器番号(個体番号)

設定値：1～4（初期値：1）

- ① 9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチをオフにします。
- ② ▽/△キー操作で中継器番号を合わせ、▽/△キーを同時に押すと設定が完了します。



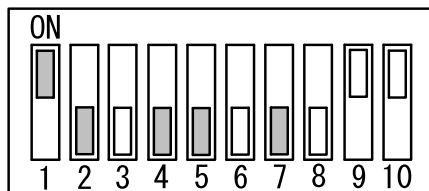
注意

初期設定では、スキャンはオン（自動）に設定されています。スキャン オン（自動）（P.20）中は、中継器番号を設定変更できませんので、ご注意ください。

2. チャンネルグループ

設定値：A～H（初期値：A）

- ① 1・9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチをオフにします。
- ② ▽/△キー操作で中継器番号を合わせ、▽/△キーを同時に押すと設定が完了します。



スキャン設定値（オン/オフ）に関わらず設定変更できます。
1番スイッチをオンにすると設定モードに入らなくても▽/△キー操作でチャンネルグループを変更できます。

注意

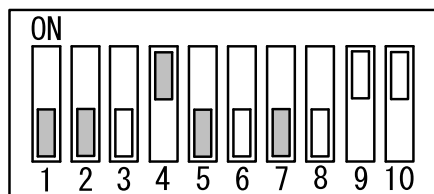
1番スイッチをオンにしていると、▽/△キー操作での音量変更ができませんのでご注意ください。
音量変更したい場合は1番スイッチをオフにしてください。

3. スキャン

設定値：オフ（手動）/オン（自動）（初期値：オン）

一定間隔で最寄りの中継器の中継器番号を自動判別する機能です。

- ① 4・9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチをオフにします。
- ② ▽/△キー操作でスキャンをオンまたはオフに合わせ、▽/△キーを同時に押すと設定が完了します。



メモ 中継器設定する場合は、スキャン オフ（手動）にしてください。

注意 スキャン オフ（手動）中は、中継器からのビーコン（信号）による自動チャンネル設定をしません。

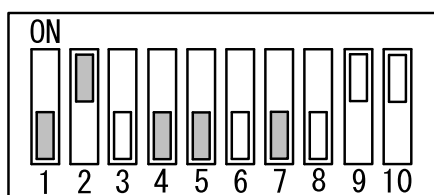
4. アクセス速度

設定値：オフ（通常）/オン（高速）（初期値：オフ）

本機及び中継器リモコンの設定項目になります。オフ時は、通信制度を優先し、アクセスに時間がかかるため、長めの頭切れが発生します。

オンにするとアクセスを優先するようになり、頭切れを緩和することができますが、混信の多い環境では中継器を誤認することがあります。使用環境に合わせて最適な設定でご使用ください。

- ① 2・9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチをオフにします。
- ② ▽/△キー操作でアクセス速度をオンまたはオフに合わせ、▽/△キーを同時に押すと設定が完了します。



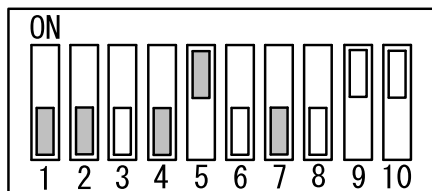
メモ 中継器からの信号を受信したとき、ランプが点滅します。

5. アクセス音

設定値：オフ/アクセス音/エンドピー/ALL（初期値：ALL）

連結中継の通話開始(応答)のときのアクセス音「ピピ」と、通話終了時になるエンドピー音の動作を切り替える機能です。

- ① 5・9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチをオフにします。
- ② ▽/△キー操作でアクセス音を合わせ、▽/△キーを同時に押すと設定が完了します。



6. ビーコン間隔時間

設定値：オフ/5秒/10秒/20秒/30秒/40秒/50秒/60秒（初期値：10秒）

中継器リモコンの設定項目になります。

- ① 7・9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチをオフにします。
- ② ▽/△キー操作でビーコン間隔時間を合わせ、▽/△キーを同時に押すと設定が完了します。



中継器は子機に最寄りの中継器判定のため、一定時間毎に中継器から約 1 秒間ビーコン(信号)を送信します。受信待受け時に子機は最寄りの中継器からの信号を受信して、中継器へアクセスが出来るように自動的にチャンネルを設定します。



参考

中継器からの信号を受信したとき、ランプが点滅します。

自動的にチャンネル設定した場合は、チャンネルグループと中継器番号が鳴ります。

9-4. 中継器リモコン（設定値送信）

▽/△キーを同時に押して設定モードに入り、スキャン オフ（手動）中に PTT キーを約 3 秒間長押しで「設定内容を無線通信します」が鳴り、ランプが赤色点滅し設定値を送信します。

注意 スキャン オン（自動）中は、設定値送信ができませんので、ご注意ください。

9-5. 通話方法

- ① 通話方式を連結中継モード（9-1）に設定します。
- ② 本機のチャンネルを「A～H」の任意のものを選択します（2.チャンネルグループ）。通話したい無線機すべてを同じチャンネルに合わせます。
- ③ 中継器のチャンネルを本機と同じものへ変更します。中継器の取扱説明書をご参照のうえ、変更してください。中継器リモコン（P.47）でも中継器の設定を変更できます。
- ④ 信号を受信するランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の声が聞こえます。
- ⑤ 信号を受信していないことを確認してから PTT キーを押します。押し続けた状態でマイクに話しかけます。

9-6. 通話確認

通話確認では 10m 以上離して 2 台の中継器を仮置きします。子機すべてを使い、2 台の中継器の周りを移動して中継通話ができるのを確認します。距離が近いと電波が干渉し合い、ノイズが乗ったり繋がりにくかったりしますが、声が聞こえていれば正しく設定されていると判断できます。

通話確認が終わったら中継器の AC アダプターをコンセントから抜きます。

中継器の説明書を参照して、運用場所に正しく設置します。

注意 通話確認で使用する2台の中継器は中継器番号が1番と2番のものを使用してください。1番と2番以外の組み合わせでは通話できません。

9-7. 設定スイッチ表

連結中継モードになると設定スイッチ割り当てが以下となります。

2・4・5・7番スイッチは、連結中継モード中は設定モード以外では使用できません。

項目		初期値	設定スイッチ
1-0	中継器番号	1	
1-1	チャンネルグループ	A	
2	アクセス速度	オフ（通常）	
3	PTT ホールド（送信保持）	オフ	
4	スキャン	オン（自動）	
5	アクセス音	ALL	
6	コンパnder（雑音低減）	オフ	
7	ビーコン間隔時間	10 秒	
8	コールバック（音声モニター）	オフ	
9	マイク選択	マイク 2	
10	主電源	オフ	

10. 受信音ミュート

イヤホンを使用中の受信時に、一時的にイヤホンから聞こえる受信音量を下げる機能です。接客業などで接客中に受信音量を下げたい(ミュート)ときに活用できます。

設定値：オフ/ハンド/タッチ/ボイス（初期値：オフ）

- 注意**
- タッチとボイスはバッテリーセーブ機能が動作しないため、使用時間が大幅に短くなりますが異常ではありません。限定的な用途にニーズがあるため敢えて採用しています。
一般用途にはハンドをお使いください。
 - 受信音ミュート設定（ハンド・タッチ・ボイス）中に関して、起動からの音声ガイダンスでのお知らせ後、約 1 秒間はミュート動作しないのでご注意ください。

10-1. 設定モード

- ① 本機の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「ププ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、「▽ → ▽ → △」の順番で押すと各設定項目が鳴り設定モードに入ります。（ランプ：黄色点滅）



参考

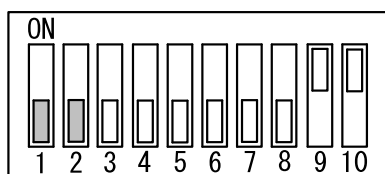
電源キーを押すと各設定項目名と設定値が鳴ります。下記以降 1～2 番スイッチの操作でも同様に鳴り設定変更できます。

- 注意**
- 「10-2. 設定項目」以降の設定スイッチでは 10 番スイッチ（主電源）をオンに、9 番スイッチ（マイク選択）をオン（マイク 2）にした状態で説明しています。
 - 「10-2. 設定項目」以降の設定完了後の再起動は、設定変更のお知らせとしてランプが約 3 秒間紫色点灯し、その後青色点灯します。
 - 設定モードでは 1～2 番のスイッチを使用します。それ以外は設定変更できませんのでご注意ください。設定完了後はすべてのスイッチを使用して設定変更できます。

10-2. 設定項目

1. ハンド設定

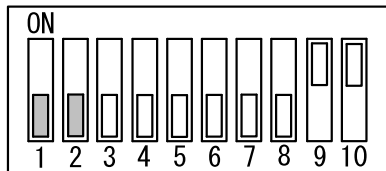
- ① 1・2 番スイッチをオフにします。他のスイッチについてはオン、オフの状態はどちらでもよいです。
- ② ▽/△キー操作で「ハンド」に合わせ、PTT キーを押すと青色点灯し設定が完了します。
- ③ PTT キーを押すと「ピピ」音が鳴り受信音量が下がります。
- ④ 再度 PTT キーを押すと「ププ」音が鳴りもとの音量に戻ります。



- 注意**
- ハンドでは送信開始までに遅延が起こるため、音声の始めが途切れる場合があります。
 - 受信音量を下げたあとに一定時間無操作が続くと自動的にもとの音量に戻ります。
 - VOX、PTT ホールド機能設定時は受信音ミュートが使用できません。
 - ミュート状態でのキー操作はミュートが解除されます。

2. タッチ設定

- ① 1・2番スイッチをオフにします。他のスイッチについてはオン、オフの状態はどちらでもよいです。
- ② ▽/△キー操作で「タッチ」に合わせ、PTT キーを押すと青色点灯し設定が完了します。
- ③ 選択しているマイク付近を軽くタッチすると「ピピ」音が鳴り受信音量が下がります。
- ④ 再度軽くタッチすると「ププ」音が鳴りもとの音量に戻ります。

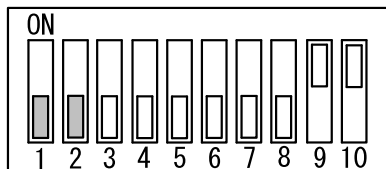


注意 ● タッチはバッテリーセーブ機能が働かないため、使用時間が大幅に短くなりますが異常ではありません。限定的な用途にニーズがあるため敢えて採用しています。
一般用途にはハンドをお使いください。

- タッチする場合は本機に強い衝撃を与えたり、高所から落下させたりしないでください。ケースの破損や故障の原因となります。
- 受信音量を下げたあとに一定時間無操作が続くと自動的にもとの音量に戻ります。
- VOX、PTT ホールド機能設定時は受信音ミュートが使用できません。
- ミュート状態でのキー操作はミュートが解除されます。

3. ボイス設定

- ① 1・2番スイッチをオフにします。他のスイッチについてはオン、オフの状態はどちらでもよいです。
- ② ▽/△キー操作で「ボイス」に合わせ、PTT キーを押すと青色点灯し設定が完了します。
- ③ 選択しているマイクに話すと「ピピ」音が鳴り受信音量が下がります。話している間は保持します。
- ④ 話し終わると一定時間後に「ププ」音が鳴りもとの音量に戻ります。



注意 ● ボイスはバッテリーセーブ機能が働かないため、使用時間が大幅に短くなりますが異常ではありません。限定的な用途にニーズがあるため敢えて採用しています。
一般用途にはハンドをお使いください。

- 話している音声以外で誤動作してしまう騒音の大きい場所では、使用できません。
- 受信音量を下げたあとに一定時間話している音声がなくなると自動的に元の音量に戻ります。
- VOX、PTT ホールド機能設定時は受信音ミュートが使用できません。
- ミュート状態でのキー操作はミュートが解除されます。

4. 受信音ミュートレベル

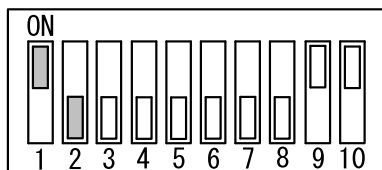
設定値：1～7（初期値：4）

受信音ミュートのタッチ、ボイスのマイク感度レベルを変更できます。

本機の装着位置でマイクから入る音量が異なります。このためミュートが利きにくい場合やミュートが利きやすい場合に調整できます。

ミュートが利きにくい場合は設定値を大きく、ミュートが利きやすい場合は設定値を小さくして、確認してからお使いください。

- ① 1・2 番スイッチをオフにします。他のスイッチについてはオン、オフの状態はどちらでもよいです。
- ② ▽/△キー操作で設定値を合わせ、PTT キーを押すと青色点灯し設定が完了します。



メモ 設定値を大きくし過ぎると、誤動作するおそれがあるためご注意ください。

5. 受信音ミュートディレイタイム

設定値：ハンド・タッチ：5/10/15/30/60（初期値：15 秒）

ボイス：1/2/3/4/5（初期値：3 秒）

受信音ミュートのミュート保持時間を変更できます。

ハンドとタッチではミュート解除忘れを防ぐための一定時間設定です。

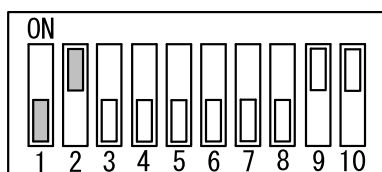
設定時間になると自動的にミュートが解除されます。

ミュート保持時間を延ばしたい場合は、設定時間を長くしてください。

ボイスでは息継ぎしてもミュート解除しないための時間設定です。

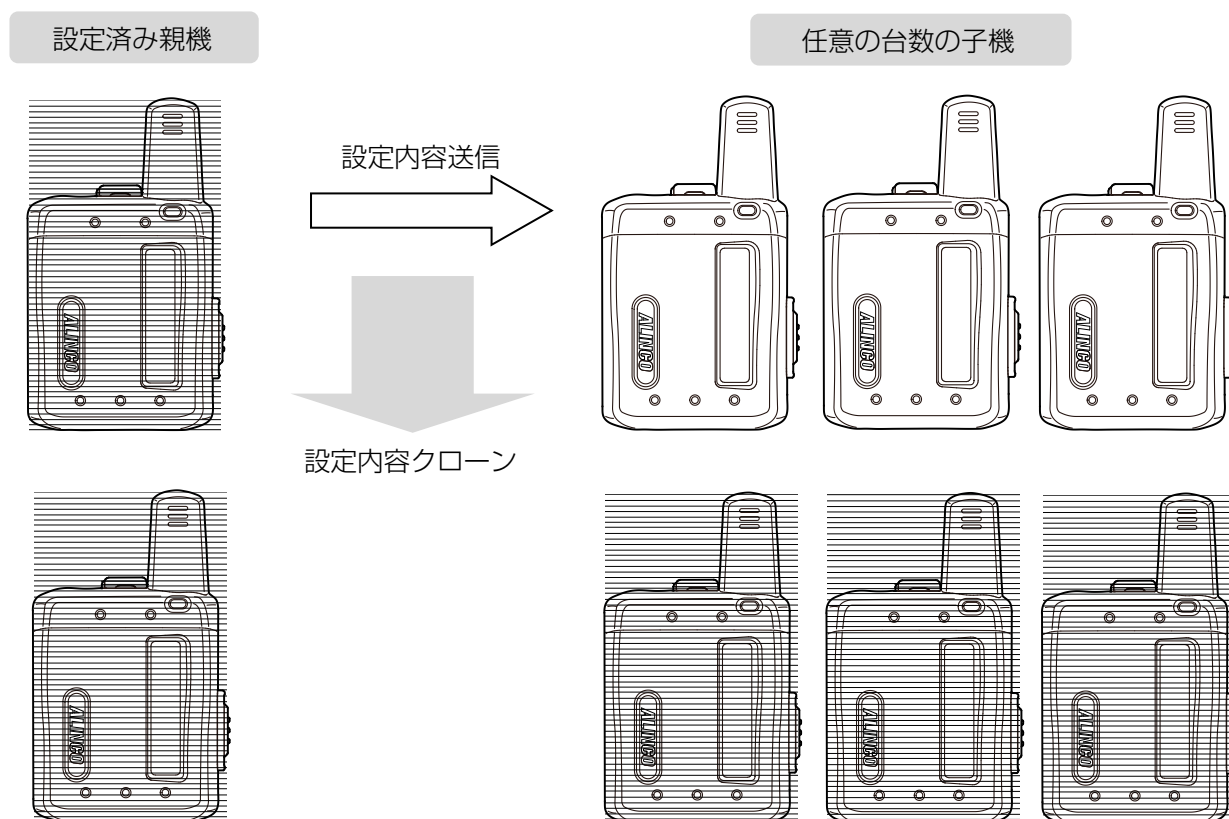
ミュートの切り替えを素早くしたい場合に設定を短めにするると使い勝手が向上しますが、息継ぎですぐミュートが解除されることもあります。確認してからお使いください。

- ① 1・2 番スイッチをオフにします。他のスイッチについてはオン、オフの状態はどちらでもよいです。
- ② ▽/△キー操作で設定値を合わせ、PTT キーを押すと青色点灯し設定が完了します。



11. エアクローン

設定済みの DJ-PX7G(以下、親機)から他の DJ-PX7G(以下、子機)に、無線で親機のチャンネル・グループ番号や各種設定内容を送り、同じ設定(クローン)にすることができます。



[子機]

- ① 本機の電源を切った状態でイヤホンをジャックに接続し、ランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「プププ」音が鳴ったあと 10 秒以内に「▽ → △ → 電源 → △ → ▽」の順番で押します。
- ③ ランプが青色と赤色の交互点滅に切り替わり、「エアクローンモードです～」が鳴ります。
- ④ 親機からの設定情報を受信したらランプが青色点滅に切り替わります。
- ⑤ 自動設定が完了したらランプが緑色点滅しチャンネルとグループの番号をお知らせしたあと自動的に電源が切れます。
- ⑥ 正常にクローンされた場合、起動音の後に「クローン設定」に続き親機と同じチャンネルとグループが鳴ります。

[親機]

- ① 取扱説明書に従って設定を済ませます。
- ② 本機の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ③ キーを放し「プププ」音が鳴ったあと 10 秒以内に「▽ → △ → 電源 → △ → ▽」の順番で押します。
- ④ ランプが青色と赤色の交互点滅に切り替わり、「エアクローンモードです～」が鳴ります。
- ⑤ PTT キーを長押しすると「設定内容を無線通信します」が鳴り設定情報を送信します。
(ランプ：赤色点滅)
- ⑥ 子機の自動設定が完了したら親機の電源を切ります。

注意

- 自動設定が完了すると、クローンロックがかかり各種キー・スイッチ操作・ACSHでの設定変更がすべてできなくなります。設定する場合はリセット（初期化）してください。リセットは電源を切った状態で電源とPTTキーを同時に5秒間押し続けます。
その場合エアクローンで自動設定した内容は消去されますのでご注意ください。
- エアクローンは満充電の状態で行ってください。設定中に電源が切れた場合、正しく設定されないことがあります。
- エアクローンは外来電波による誤判定を防ぐため近距離でご使用ください。
自動設定中は電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。
- 子機が設定情報を受信し自動設定が完了する時間は最大で20秒程度を要することがあります。
- 親機からリモコンロック無効の設定値がクローンされた場合、中継リモコン設定モードに入れますのでご注意ください。
- 親機からリモコンロック有効の設定値がクローンされた場合、中継リモコン設定モードに入れますが、設定値の変更ができません。設定値の送信のみ使用できます。

12. 呼出音（コールトーン）

送信中に▽/△キーを押すと、呼出音（コールトーン）が送出され、相手を呼び出すことができます。5 番スイッチがオンの場合、呼出音は鳴りません。

13. グループトーク機能

グループトーク機能を設定するとグループ番号が一致した場合のみ受信音声聞こえます。グループ番号の合わない信号を受信したときに音を出さない機能です。

他のユーザーと混信しやすい場所で設定すると便利です。

■ グループ番号を合わせる

2 番スイッチをオンにして▽キーを押しながら電源を入れます。ランプが点灯し「グループを選択してください」が鳴ったら▽/△キーを押してグループを選択します。設定したいグループ番号が鳴ったらそのまま 5 秒間放置するか、PTT キーを押して確定します。

グループ番号は 01～50 を選択できます。

また、他社製や長年お使いの機種が混じるときは相性による通話不良を避けるため、02～38 番からお選びください。

注意

- チャンネルとグループ番号が一致している人とのみ通話ができます。
相手がグループトークを設定していない場合、こちらの声は相手に聞こえます。他人の声を聞かずに済むだけで、混信除去や秘話機能ではありません。
- グループ番号を設定した後にチャンネルや通話方式を変更しても、グループ番号はそのまま維持されます。



参考

グループトークをオンにした際の初期値は1番に設定されており一般的によく使用されます。混信を避けるために1番以外の設定をお勧めします。

14. 減電池お知らせ

バッテリーの電圧が低下するとランプが青色点滅してお知らせします。さらに低下すると点滅周期が速くなるとともに「充電してください」が定期的に鳴ります。本機の電源を切り充電器に挿入して充電してください。

15. イヤホン断線検知機能

電源を入れた直後にランプが赤色と緑色に交互点滅していたらイヤホンが断線しています。プラグが緩んでいないか接続状態を確認し、故障していたら新しいものにお取替えください。

16. リセット

リセットをすると、拡張セットモードを含む全ての設定が初期化され、工場出荷状態になります。
本機には、一部分のみを変更するようなパートリセットはありません。

■ リセット方法

電源を切った状態で電源キーと△キーと PTT キーを同時に 5 秒間押し続けます。途中でランプが点灯しますが、そのまま押し続けると交互点滅に代わり「初期化しました」と鳴ります。すべての設定内容は初期化され工場出荷状態に戻ります。

17. セットモード

本機は用途に合わせて、より使いやすくするためにカスタマイズすることができます。ここでは簡易取扱説明書でご説明しきれていない設定スイッチの内容についてご説明します。

■ 設定スイッチ

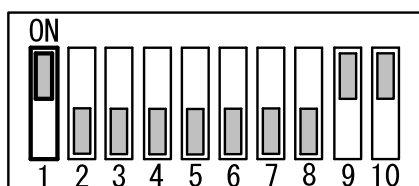
セットモードを設定するには本体裏面のゴムキャップを外してスイッチを操作してください。スイッチの切り替えには先端が鋭利ではないものをお使いください。設定完了後は ゴムキャップを元通りに取付けてください。(主電源の 10 番スイッチは ON にします)

17-1. セットモード項目

1. 交互通話/中継通話

設定値：交互通話/中継通話（初期値：交互通話）

設定スイッチ 1 番をオンにすると、中継通話用のチャンネルになります。チャンネルはキー操作で選択します。

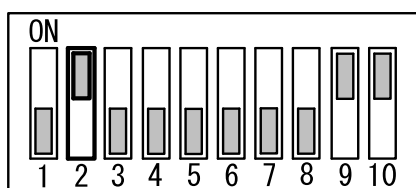


中継器を使用すると通話エリアが広がります。中継通話には別途中継器が必要です。中継器の周波数方向は B（440MHz 受信/421MHz 送信）に設定してください。

2. グループトーク

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

設定スイッチ 2 番をオンにするとグループトークができます。

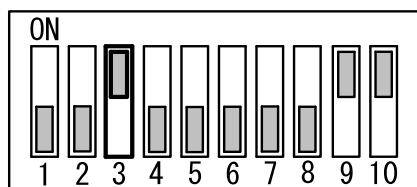


グループトークを設定することで、同じグループ番号に設定されているトランシーバーとだけ通話することができます。グループ番号はグループトーク機能（P.27）をご参照ください。

3. PTTホールド（送信保持）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

設定スイッチ 3 番をオンにすると PTT ホールド（送信保持）設定がオンになります。

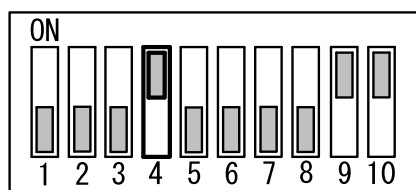


この機能を使用すると送信中に PTT キーを押し続ける必要がなくなります。PTT キーを 1 度押すと送信状態を継続し、もう 1 度押すと待受け状態になります。

4. VOX（音声検出送信）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

設定スイッチ 4 番をオンにすると VOX（音声検出送信）設定がオンになります。



PTT キーを押さなくても自動的に送受信を切り替えることができる機能です。マイクに音声が入れば送信、音声が無くなれば待受け状態になります。

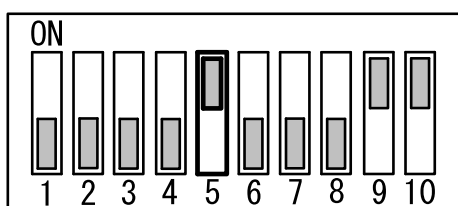
注意

- 音声以外で送信してしまうような周囲の騒音が大きな場所ではVOX機能を使用することはできません。
- VOX機能を使用すると音声入力から送信開始までに若干の遅延が起こるため、音声の始めが途切れる場合があります。「了解です、～」や「はい、～」など、要件を話す前に途切れても支障がないような言葉をはさんで話し始めると通話しやすくなります。

5. ビープ音＋音声ガイダンス

設定値：オフ/オン（初期値：ミュートオフ）

設定スイッチ 5 番をオンにすると本体から鳴る「ビープ音（操作音）」と「音声ガイダンス」がオフになり鳴らなくなります。



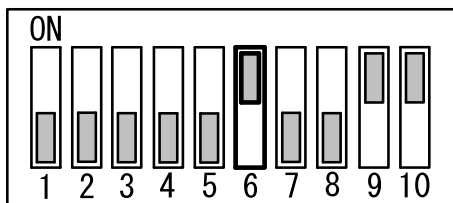
注意 チャンネルやグループ番号、減電池お知らせなどのすべての音声ガイダンスが鳴らなくなりますのでご注意ください。

6. コンパンダー（雑音低減）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

6 番スイッチを ON にするとコンパンダーが設定されます。

通話中に聞こえる「サー」というかすかなバックノイズを低減することができます。



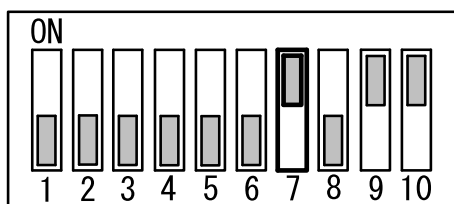
注意 コンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合には必ずオフにしてください。かえって音質が悪くなる場合があります。

7. エンドピー（送信終了音）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

7 番スイッチをオンにするとエンドピーが設定されます。

PTT キーを離したときに「ピッ」と鳴って通話相手に送信が終わったことを伝える機能です。



メモ エンドピーは送信を終了したときに送信側から「ピッ」という音を発し、受信側にお知らせします。本機能をオフ/オンするには送信側機器を設定してください。

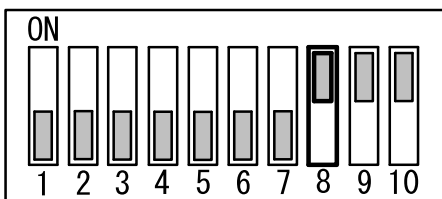
注意 ● 連結中継モードではエンドピーは設定できません。
● エンドピーが設定されている場合は、エンドピーは設定できません。

8. コールバック（音声モニター）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

8 番スイッチを ON にするとコールバックが設定されます。

送信中にイヤホンから自分の声が聞こえるようになります。



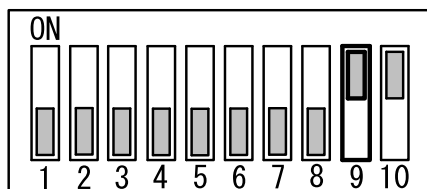
9. マイク選択

設定値：マイク 1/マイク 2（初期値：マイク 2）

出荷時には 9 番スイッチがオンになっており、マイク 2 が設定されています。

9 番スイッチをオフにすると、マイク 1 が設定されます。

トランシーバーの取付け方向に応じてマイクを選択してください。



注意 本機はアンテナを上向きで使用する事を想定し、出荷時はマイク2が設定されています。この使用方法だとアンテナの突起が邪魔になることがあります。アンテナが邪魔になるときは、マイク1に設定にして、背面のベルトクリップも逆に取付け、アンテナを下向きにしてご使用ください。ただしアンテナを下向きで使用すると、送信ボタンを押すときに手がアンテナを覆って障害となり、通話距離は若干短くなりますので、ご注意ください。

10. 主電源

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

10 番スイッチをオンにすることで電源キーでの起動や充電が可能となります。



注意 ● 本機をしばらくご使用にならないときは安全のためや、リチウムイオンバッテリーの劣化防止のために10番スイッチをオフにしてください。
● 充電する場合は10番スイッチをオンにして、電源キーで電源を切ってから充電してください。

18. 拡張セットモード

DJ-PX7Gには、特定の環境やニーズによってカスタマイズできる拡張セットモードを持たせています。通常の設定項目とは異なり意味を正しく理解しないと一部の機能が使えなくなるなど誤動作する可能性があるため、製品に付属の取扱説明書には記載しておりません。拡張機能をご理解の上で必要に応じて正しく操作してください。

18-1. 拡張セットモード一覧

No.	項目	初期値	コマンド
1	イヤホン断線検知	オン	[▽]→[▽]→[▽]
2	AGC 設定	オン	[電源]→[電源]→[▽]
3	トーンマージン設定	オフ	[△]→[△]→[△]
4	PTT オン/オフ機能	オン	[電源]→[電源]→[△]
5	送信出力	High	[△]→[電源]→[電源]
6	中継設定	A	[△]→[△]→[電源]
7	中継接続手順	オン	[△]→[電源]→[△]
8	マイク音量	4	[電源]→[電源]→[電源]
9	LED 輝度調整	High	[△]→[△]→[▽]
10	エンドピピ	オフ	[▽]→[電源]→[電源]
11	連結中継モード スキャンガイダンス設定	オン	[電源]→[△]→[△]
12	スタートピー	オフ	[▽]→[電源]→[△]
13	お知らせ機能	オフ	[電源]→[▽]→[△]
14	お知らせパターン	ビープ音 '1'	[電源]→[△]→[電源]
15	お知らせ音量	Middle	[電源]→[▽]→[▽]
16	お知らせ回数	2	[△]→[▽]→[電源]
17	キャリアセンス設定	オン	[電源]→[△]→[▽]

18-2. 設定方法

オン/オフ切替（設定項目：1～4、7、10～13、17）

- ① 本機の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「プププ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、変更したい設定項目のコマンドを押すと設定値が変わります。この時、項目番号と変更された設定値が鳴ります。
例：イヤホン断線検知のコマンド入力 「1 番 オフ」
- ③ 自動的に通常モードに戻り、設定変更された状態で使用できます。

注意 ● 設定が初期値から変更された後の起動は、設定変更のお知らせとしてランプが約3秒間紫色点灯し、その後青色点灯します。
● 続けて複数の設定項目の変更ができませんのでご注意ください。

範囲切替（設定項目：5～6、8～9、14～16）

- ① 本機の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「プププ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、変更する設定項目のコマンドを押すと設定項目名や設定値が鳴ります。（ランプ：黄色点滅）
- ③ ▽/△キー操作で設定値を変更し、PTT キーを押すと青色点灯し通常モードになります。

 注意

- 初期値から変更された後の起動は、設定変更のお知らせとしてランプが約3秒間紫色点灯し、その後青色点灯します。
- 続けて複数の設定項目の変更ができませんのでご注意ください。

18-3. 設定項目

1. イヤホン断線検知

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

イヤホンの断線を検知する機能です。

イヤホンが断線している場合、電源を入れた直後にランプが赤色と緑色に交互点滅します。入力インピーダンスが高い機器を接続する場合などはオフに設定することで断線検知を停止できます。

2. AGC 設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

マイクに大きな音声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。本機能をオンにすると歪みを抑えることができます。

 注意

機種間の相性問題を解決できることがありますが、不用意に設定を変更するとかえって音質が悪化することがあります。

3. トーンマージン設定

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

グループトークでのトーン信号の受信精度を調整することができます。従来製品との通話においてグループトークで受信音声途切れる場合、オンにすることで受信しやすくなります。

 注意

オンにした場合、グループ番号のトーン信号を誤検知する場合や受信終了時「ザッ」音が聞こえます。

4. PTT オン/オフ機能

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

送信を禁止し受信専用にする機能です。オフにすると PTT キーを押しても送信できなくなります。

5. 送信出力

設定値：High(10mW)/Low(1mW)（初期値：High 10mW）

送信時の送信出力を変更することができます。



- Low(1mW)に設定すると通話距離は短くなりますが、中継ビジネスチャンネル（b12～b29）に設定すると 3 分制限なしの連続通話ができます。
- 連結中継モードで中継器に設定値送信する際に、拡張セットモードで設定されている送信出力の設定値も送信されます。

6. 中継設定

設定値：A/B（初期値：A）

中継器を使用するときの周波数帯を変更することができます。
通常は初期状態の A で使用してください。



参考

使用する中継器の設定を確認ください。周波数帯は中継器と逆に設定します。
中継器が A なら子機を B に、中継器が B なら子機を A にします。

7. 中継接続手順

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

中継動作自動接続手順を解除する機能です。接続タイミングを最適化する設定なので、中継器を使っていないときは変更する必要はありません。

8. マイク音量

設定値：1～7（初期値：4）

マイクに向かって話す音が小さい、または音が歪む場合に調整できるようになっています。
設定値が大きいほど感度が高くなり、通話相手に聞こえる受信音声が大きくなります。

9. LED 輝度調整

設定値：オフ/Low/Middle/High（初期値：High）

ランプの輝度（明るさ）を変更したい場合に調整できるようになっています。

注意

- OFFにした場合、ランプが点灯しません。受信待受け・受信・送信・減電池お知らせ・断線検知時の確認ができなくなりますので、ご注意ください。
- OFFにした際にランプが点灯しないことで、電源を切り忘れるおそれがあります。電源を切り忘れて充電すると、充電が正常にできない原因にもなりますのでご注意ください。

10. エンドビピ

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

受信終了時に、受信の強度(レベル)に合わせて音を鳴らす機能です。
強いレベルの信号を受信したときは「ピッ」、少し弱いレベルの信号を受信したときは「ピピッ」、非常に弱いレベルの信号を受信したときは「ピピピッ」と鳴ります。

注意

- エンドビピはテールノイズキャンセラーを搭載した弊社製品または、グループ（トーン）を設定した無線機から送信された音声を受信した後、受信が終了するときに鳴ります。本機能をオン/オフする際は受信側機器を設定してください。
- 本機能をオンにした場合は、設定スイッチ7番のエンドピーを設定することはできません。
- 連結中継モードでは、エンドビピは使用できません。

11. 連結中継モード スキャンガイダンス設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

連結中継モードで、アクセスする連結器番号が自動で切り替わった際にガイダンスでお知らせする機能です。スキャンをオン（自動）で連結中継モードを使用しているとき、本機は中継器からのビーコン（信号）を受けて自動でアクセスする連結器番号の設定を行います。連結器番号が切り替わった際は音声ガイダンスでお知らせします。

本機と中継器の場所によっては、中継器番号が頻繁に切り替わる可能性があります。連結器番号が頻繁に切り替わってしまい、ガイダンスが邪魔になる際はオフに設定してください。

12. スタートピー

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

PTT キーを押すと「ピピッ」音が鳴ります。鳴り終わってから話すことで、通話の頭切れを防げます。「ピピッ」音は相手には聞こえません。

13. お知らせ機能

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

相手に、自分が取り込み中であることをお知らせする機能です。電源キーを押すと相手側でピープ音が鳴り、自分が声で応答できないことを代わりに知らせることができます。この機能を有効にするには、送信側、受信側共にオンに設定する必要があります。

注意 この機能は中継通話モードではご使用になれません。

14. お知らせパターン

設定値：ピープ 1～4/ガイダンス 1～10（初期値：ピープ 1）

「13.お知らせ機能」のピープ音を変更する機能です。受信側で設定します。設定値によって、お知らせを受信したときのピープ音が変化します。また、ガイダンス 1～10 に設定することで、ピープ音ではなく音声ガイダンスによってお知らせすることができます。

設定値	音声ガイダンス内容
ガイダンス 1	こちらまで来てください
ガイダンス 2	応援願います
ガイダンス 3	急いでください
ガイダンス 4	緊急事態です
ガイダンス 5	不審者がきました
ガイダンス 6	集合してください
ガイダンス 7	確認してください
ガイダンス 8	対応中です
ガイダンス 9	ご来店です
ガイダンス 10	お帰ります

15. お知らせ音量

設定値：Low/Middle/High（初期値：Middle）

「13.お知らせ機能」のお知らせ音量を変更する機能です。受信側で設定します。

16. お知らせ回数

設定値：1～3（初期値：2）

「13.お知らせ機能」でお知らせを受信した際に鳴るビープ音の回数を変更する機能です。受信側で設定します。設定値が大きいほどビープ音が繰り返される回数が多くなります。

17. キャリアセンス設定

設定時：オフ/オン（初期値：オン）

「キャリアセンス」（P.9）を常時発生させる機能です。送信終了後すぐに信号を受信した場合でもキャリアセンスがはたらき、警告音が鳴り送信できなくなります。

19. アプリ設定

本機はスマートフォンのアプリ「DJ-PX7」を使って、チャンネル・グループ番号などを自動設定できます。アプリ画面上で操作しスマートフォンからの設定音を本機が読みとる機能です。本機は設定を表示する液晶がないので手動での設定が分かりにくいですが、本機能によりアプリ画面上で簡単に設定できます。

19-1. ダウンロード

アプリ設定用のアプリ「DJ-PX7」をダウンロードします。

◆Android をご利用の場合

- ① 「Play ストア」をタップします。
- ② 画面上部の検索窓に「DJ-PX7」と入力してください。
- ③ 検索結果に表示された「DJ-PX7」をタップし、インストールします。

◆iOS をご利用の場合

- ① 「App Store」をタップします。
- ② 「検索」のアイコンをタップします。
- ③ 検索窓が表示されるので、「DJ-PX7」と入力してください。
- ④ 検索結果に表示された「DJ-PX7」をタップし、入手します。

アプリを起動し、設定を行います。

19-2. 初期画面

アプリでは設定を大きく2つに分けています。



- ① 通常セットモード
音量、チャンネル、グループと本体背面にある設定スイッチ No.1～No.9 までを設定できます。
- ② 拡張セットモード
拡張セットモードや受信音ミュート・中継器リモコン設定・連結中継モードに関する項目を設定できます。
- ③ 書き込みボタン
書き込みボタンをタップすると、本機に設定するための設定音がスマートフォンのスピーカーから出力されます。
- ④ 初期化ボタン
初期化ボタンをタップすると、「設定データを初期化しますか」と確認画面が出ます。「はい」をタップすると、アプリ画面上の設定したデータが初期化されます。



注意 アプリ設定はすべて(通常・拡張)の設定項目を本機に設定します。設定前に本機を手動で設定変更していた項目も、初期値や変更した設定値へ設定されるのでご注意ください。

19-3. 通常セットモード

音量、チャンネル、グループと本体背面にある設定スイッチ No.1～No.9 までを設定します。
画面左上の「<」をタップすると初期画面に戻ります。

The screenshot shows the 'DJ-PX7の設定' (Settings) screen for Version 2.0. The title bar is blue with a back arrow on the left. Below the title bar, the screen is divided into sections. The first section is '通常セットモード' (Normal Setup Mode). The second section is '音量' (Volume), with a slider set to 15. The third section is '1. 通信方式' (1. Communication Mode), with two radio buttons: '交互通話' (Intercom) which is selected with a blue checkmark, and '中継通話' (Relay). Below this is 'チャンネル' (Channel), with a dropdown menu showing 'L01 (422.2000MHz)'. The fourth section is '2. グループトーク' (2. Group Talk), with a toggle switch for '有効' (Valid) which is turned on, and a dropdown for 'グループトーク' (Group Talk) set to '1'. The fifth section contains items 3 through 8, each with a toggle switch: '3. PTTホールド(送信保持)' (off), '4. VOX(音声検出送信)' (off), '5. ビープ音+音声ガイダンス' (on), '6. コンパンダー(雑音低減)' (off), '7. エンドビー(送信終了音)' (off), and '8. コールバック(音声モニター)' (off). The sixth section is '9. マイク選択' (9. Microphone Selection), with two radio buttons: 'マイク1' (Microphone 1) and 'マイク2' (Microphone 2), with 'マイク2' selected with a blue checkmark.

メモ 各設定項目の詳細については「セットモード」(P.28) をご参照ください。

音量

設定値：0～30（初期値：15）
音量を 30 段階から設定します。

1. 通信方式

設定値：交互通話/中継通話（初期値：交互通話）
交互通話か中継通話を選択します。

チャンネル

交互通話を選択しているとき 設定値：L01～L09, b01～b11（初期値：L01）
中継通話を選択しているとき 設定値：L10～L18, b12～b29（初期値：L10）
チャンネルを設定します。

メモ 設定値をタップすると一覧が表示されます。

2. グループトーク

有効 設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

グループ番号 設定値：1～50（初期値：1）

グループを設定します。有効にする場合はグループトークの有効をオンにしてください。

メモ スライドスイッチをタップするとオンとオフが切り替わります。



オフ



オン

3. PTT ホールド（送信保持）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

PTT ホールドを設定します。

4. VOX（音声検知送信）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

VOX を設定します。

5. ビープ音+音声ガイダンス

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

ビープ音+音声ガイダンスを設定します。

6. コンパンダー(雑音低減)

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

コンパンダーを設定します。

7. エンドピー(送信終了音)

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

エンドピーを設定します。

8. コールバック(音声モニター)

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

コールバックを設定します。

9. マイク選択

設定値：マイク 1/マイク 2（初期値：マイク 2）

マイクを選択します。

19-4. 拡張セットモード

拡張セットモードや受信音ミュート・中継器リモコン設定・連結中継モードに関する項目を設定します。
画面左上の「<」をタップすると初期画面に戻ります。

<

DJ-PX7の設定
Version 2.0

拡張セットモード

1. イヤホン断線検知

☒

2. AGC設定

☒

3. トーンマージン設定

☐

4. PTTオン/ オフ設定

☒

5. 送信出力

☒ High(10mW) ☐ Low(1mW)

6. 中継設定

☒ A ☐ B

7. 中継接続手順

☒

8. マイク音量

4

9. LED輝度調整

High

10. エンドピピ

☐

11. PTTビーブ

☐

受信音ミュート

12. 受信音ミュート

OFF

13. 受信音ミュートレベル

4

14. 受信音ミュートディレイタイム

15秒

中継器設定

15. 中継ハングアップ

OFF

16. 中継アラーム

☐

連結中継設定

17. 連結中継モード

☒

18. チャンネルグループ

A

19. 中継器番号

1

20. スキャン設定

☒

21. アクセス速度

☐

22. アクセス音

ALL

23. ビーコン設定

10秒

24. スキャンガイダンス設定

☒

25. 常時キャリアセンス設定

☐

お知らせ設定

26. お知らせ機能

☐

27. お知らせパターン

ビーブ1

28. お知らせ音量

Middle

29. お知らせ回数

2

メモ 各設定項目の詳細については「拡張セットモード」(P.32) をご参照ください。

1. イヤホン断線検知

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

イヤホン断線検知を設定します。

メモ スライドスイッチをタップするとオンとオフが切り替わります。



オフ



オン

2. AGC 設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

AGC 設定を設定します。

3. トーンマージン設定

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

トーンマージンを設定します。

4. PTT オン/オフ設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

PTT オン/オフを設定します。

5. 送信出力設定

設定値：High(10mW)/Low(1mW)（初期値：High）

送信出力を設定します。

6. 中継設定

設定値：A/B（初期値：A）

中継を設定します。

7. 中継接続手順

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

中継接続手順を設定します。

8. マイク音量

設定値：1～7（初期値：4）

マイク音量を設定します。

メモ 設定値をタップすると一覧が表示されます。

9. LED 輝度調整

設定値：オフ/Low/Middle/High（初期値：High）

LED 輝度を調整します。

10. エンドピピ

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

エンドピピを設定します。

11. スタートピー

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

スタートピーを設定します。

12. 受信音ミュート

設定値：オフ/ハンド/タッチ/ボイス（初期値：OFF）

受信音ミュートを設定します。

13. 受信音ミュートレベル

設定値：1～7（初期値：4）

受信音ミュートレベルを設定します。

14. 受信音ミュートディレイタイム

設定値：ハンド・タッチ：5 / 10 / 15 / 30 / 60（初期値：15 秒）

ボイス：1 / 2 / 3 / 4 / 5（初期値：3 秒）

受信音ミュートディレイタイムを設定します。

メモ 受信音ミュートで選択している設定値によって、表示される設定時間が異なります。

15. 中継ハングアップ

設定値：オフ/0.5 秒/1 秒/2 秒（初期値：OFF）

中継ハングアップを設定します。

16. 中継アラーム

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

中継アラームを設定します。

17. 連結中継モード

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

連結中継モードを設定します。

18. チャンネルグループ

設定値：A～H（初期値：A）

チャンネルグループを設定します。

19. 中継器番号

設定値：1～4（初期値：1）

中継器番号を設定します。

20. スキャン設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

スキャン設定を設定します。

21. アクセス速度

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

アクセス速度を設定します。

22. アクセス音

設定値：オフ/アクセス音/エンドピー/ALL（初期値：ALL）

アクセス音を設定します。

23. ビーコン設定

設定値：オフ/5 秒/10 秒/20 秒/30 秒/40 秒/50 秒/60 秒（初期値：10 秒）

ビーコン設定を設定します。

24. スキャンガイダンス設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

スキャンガイダンス設定を設定します。

25. キャリアセンス設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

キャリアセンス設定を設定します。

26. お知らせ機能

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

お知らせ機能を設定します。

27. お知らせパターン

設定値：ビープ 1～4/ガイダンス 1～10（初期値：ビープ 1）

お知らせパターンを設定します。

28. お知らせ音量

設定値：Low/Middle/High（初期値：Middle）

お知らせ音量を設定します。

29. お知らせ回数

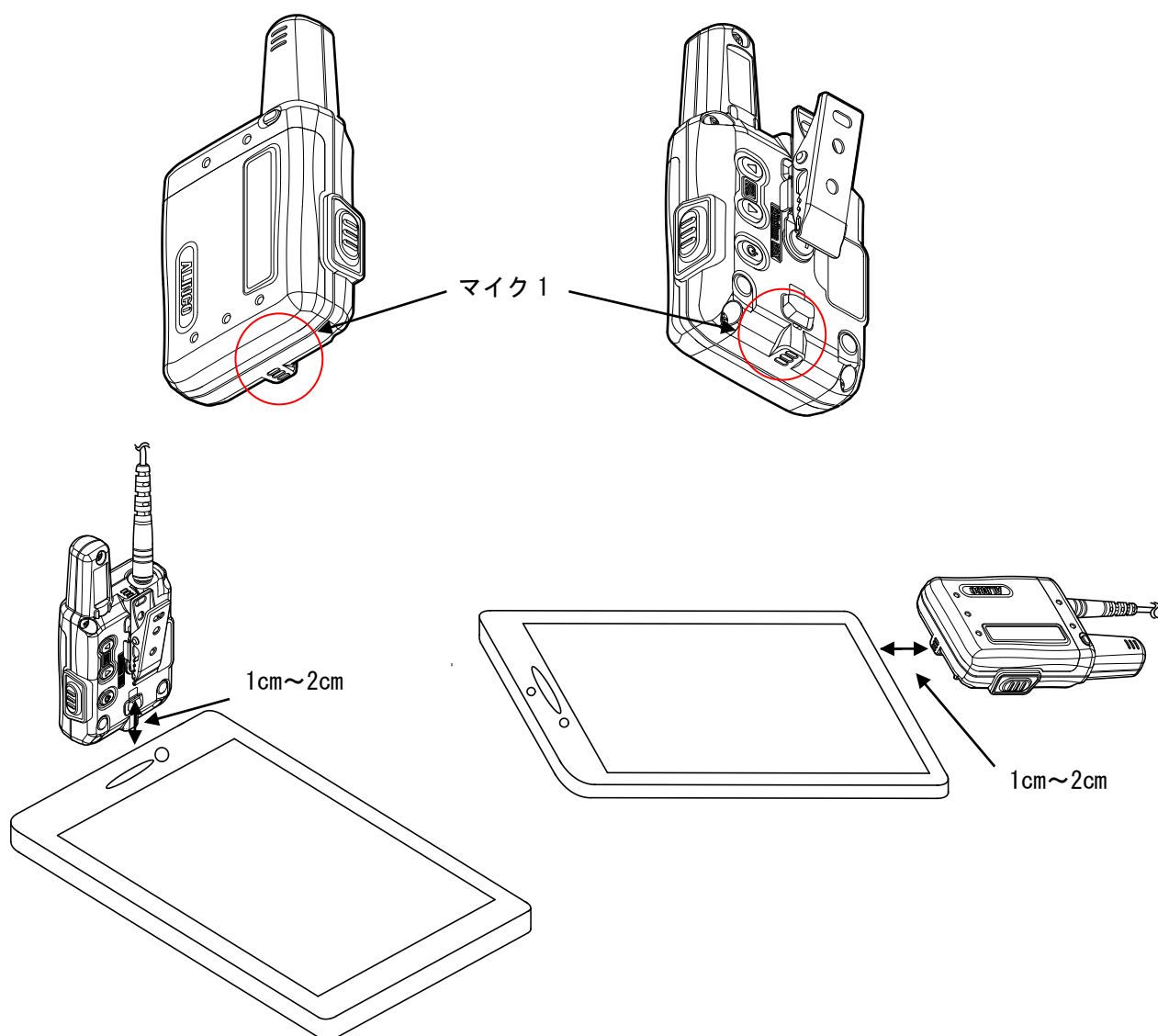
設定値：1～3（初期値：2）

お知らせ回数を設定します。

19-5. アプリ設定モード

以下の操作をして本機の「アプリ設定モード」を起動させ、アプリで設定を本機に書き込みます。

- ① 電源がオフの状態、ランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「ブブブ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、
「▽ → △ → 電源 → △ → △」の順番で押すと
「アプリ設定モードです。・・・」が鳴りアプリ設定モードに入ります。（ランプ：紫色点灯）
- ③ 本機からのお知らせが終了し、ランプが赤色点灯に切り替わったら、本機のマイク 1 にスマートフォンのスピーカーを 1cm～2cm の距離に近づけてください。



- ④ アプリの「書き込み」ボタンを押してください。
- ⑤ 本機のランプが緑色に点灯することを確認してください。
ランプが赤色点灯していたり、「設定音が正しく認識できません・・・」とお知らせしている場合は、スマートフォンからの音が小さすぎます。スマートフォンの音量を調整し、お知らせが鳴っていないときに再度書き込みボタンを押してください。

ランプが黄色点灯し、「データ受信に失敗しました。・・・」とお知らせした場合は、お知らせ終了後ランプが赤色点灯に戻ったことを確認してから再度書き込みボタンを押してください。

- ⑥ 自動設定が完了したらランプが緑色点滅になり、チャンネルとグループの番号をお知らせ後に自動的に電源が切れます。
- ⑦ 本機の設定状態を確認してください。
本機の電源を入れます。
正常に設定された場合、起動音の後に「アプリ設定」に続き、アプリで設定したチャンネルとグループをお知らせします。正しく送受信できることを確認してください。

注意

- アプリ設定は十分に電池が充電された状態でお使いください。
充電が少ない電池を使用し設定中に電源が切れた際、正しく設定されないことがあります。
- 自動設定が完了するまで15秒ほど要します。
- 設定中にランプが黄色点灯し、「データ受信に失敗しました。・・・」とお知らせした場合は途中でデータの受信に失敗しています。音量が少し小さい、逆に音量が大きすぎる、周囲の音が大きい等の原因があります。音量を調整したり、本機とスピーカーとの距離を調整したりしてから再度書き込みボタンを押してください。
- アプリで自動設定が完了すると、誤動作を防ぐためDIPスイッチやコマンドによる設定の変更ができません。本機で設定を変更する場合は、本機をリセットしてください。
- アプリで中継通話に設定すると、中継リモコン設定モードに入れますが、設定値の変更ができませんのでご注意ください。設定値の送信のみ使用できます。
- アプリで連結中継モードに設定すると、設定モードに入れますが、設定値の変更ができませんのでご注意ください。スキャンをオフに設定している場合は、設定値の送信のみ使用できます。

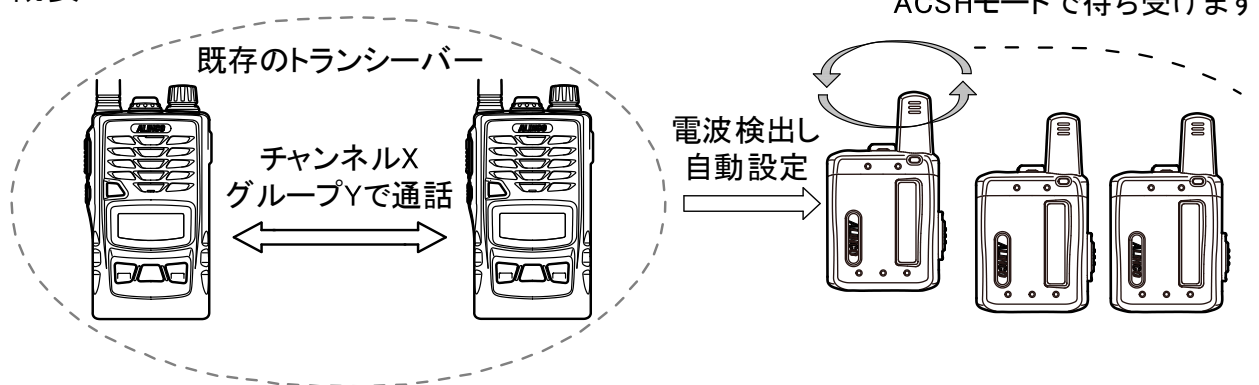
20. ACSH (アクシュ)

ACSH 「アクシュ」モード (Auto Connect Shake Hands) について説明します。

既に使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号をスキャンして検出し、本機に同じものを自動設定する機能です。

キー操作によるチャンネルとグループ番号の設定作業が省略できます。本機交互通話及び中継通話においてご使用いただけます。複数台を同時に設定することができます。

概要



■ 設定方法

- ① ACSI モードで自動設定するトランシーバー (本機) と、既に使用中の設定元 (設定済み) トランシーバーを準備します。設定元トランシーバーはあらかじめ電源を入れておきます。
- ② 本機の電源を切った状態で「アクシュモードです」と鳴るまで約7秒間電源キーを押し続けます。ランプが青色と緑色の交互に点滅します。複数台を同時に設定する場合は、他の個体も同じ状態にします。

- ③ 「設定元となるトランシーバーを送信してください」と鳴り電波の検出を開始します。既にご使用中の設定元トランシーバーを送信状態にします。このまましばらくお待ちください。数秒から最長で 2 分程度要することがあります。
- ④ 電波を検知すると「ピピ」音が鳴りランプが青色点滅します。
- ⑤ 自動設定が完了すると「自動設定が完了しました」と鳴りランプが緑色点滅します。
- ⑥ お知らせ後「ププ」音が鳴り自動的に電源が切れます。電源キーを長押しして電源を入れ直し、正しく通話できることを確認してください。

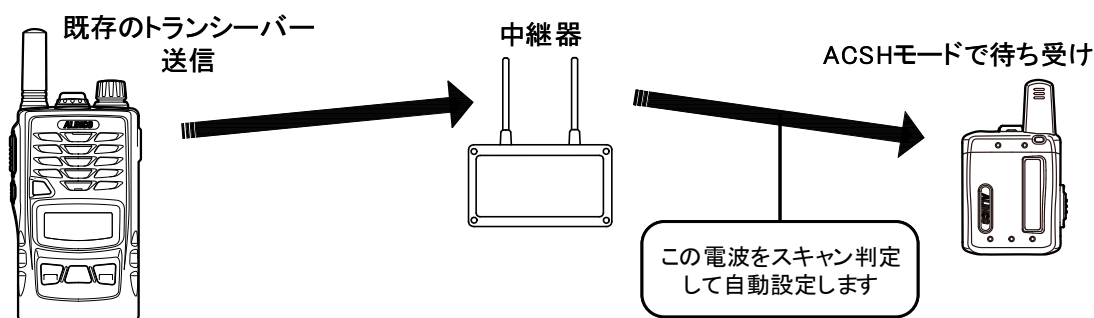
注意

- ACSHモードで自動設定後に各種キー・スイッチ操作でのチャンネルやグループの変更はできません。
- ACSHモードでの自動設定は誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。近くに強力な外来電波があると誤判定することがあります。
- 自動設定中は電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。ACSHモードの動作を途中で停止したいときは電源を切ってください。
- ACSHモードを起動し本機が電波を検出しているときは、送信側（設定元）機器のマイクから音声が入らないようにご注意ください。不要な音声により電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
- グループ番号の検出においてトーン周波数が近いものは動作が不安定であったり、誤判定することがあります。（例：01番「67.0Hz」と39番「69.3Hz」など）数回検出を試してみても誤判定する場合は、グループ番号を01～38番の範囲に設定してご使用ください。
- 自動設定後に手でチャンネルやグループ番号を変更する場合は、リセットしてください。リセットするとACSHモードで自動設定した内容は消去されますのでご注意ください。
- ACSHモードでの自動設定は本機のアンテナを上向きにした状態でおこなってください。

重要 連結中継モード時にACSHモードはご使用いただけません。連結中継モード以外の通話モードでACSHモードを設定してください。

■ 中継子機とするとき

中継子機として自動設定する場合は、中継器が発する電波を受信する必要があります。本機を ACSH モードにして既存のトランシーバーから中継器にアクセスします。中継動作中に自動設定がおこなわれます。



注意

- 中継器の周波数帯をA（440MHz帯送信）に設定している場合は、ACSHモードによる自動設定はできません。
- 中継器から発せられる電波をスキャンするときは、グループ信号が正常に判定できないことがあります。機器によりグループ信号の波形や精度が異なるためです。このようなときはグループ番号を01～38番の範囲に設定してご使用ください。

21. 中継器リモコン

本機は連結中継モード対応の中継器(DJ-P113R など)に対して、半復信中継器モードの設定をするためのリモコンとして使用できます。ここでは中継器への設定方法と設定項目について説明します。

21-1. 設定モード

- ① 本機の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「プププ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、「▽ → ▽ → 電源」の順番で押すと各設定項目が鳴り設定モードに入ります。(ランプ：黄色点滅)



参考

電源キーを押すと各設定項目名と設定値が鳴ります。下記以降1～5番スイッチの操作でも同様に鳴り設定変更できます。

注意

- 「21-2.設定項目」以降の設定スイッチでは10番スイッチ（主電源）をオンに、9番スイッチ（マイク選択）をオン（マイク2）にした状態で説明しています。
- 「21-2.設定項目」以降の設定スイッチで1～5番が複数オンにしている場合は、誤動作を防ぐため自動的に「1.チャンネル」の設定項目になります。
- 「21-2.設定項目」以降の設定完了後の再起動は、設定変更のお知らせとしてランプが約3秒間紫色点灯し、その後青色点灯します。
- 設定モードでは1～5番のスイッチを使用します。それ以外は設定変更できませんのでご注意ください。設定完了後は1～2番スイッチ以外を使用して設定変更できます。

21-2. 設定項目

1. チャンネル

設定値：L10～L18、b12～b29（初期値：L10）

- ① ▽/△キーを同時に押し、設定モードに移ります。
- ② 9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチを OFF にします。
- ③ ▽/△キー操作でチャンネルを合わせます。



2. グループ番号

設定値：オフ、01～50（初期値：オフ）

中継器にグループトーク機能を設定できます。

- ① ▽/△キーを同時に押し、設定モードに移ります。
- ② 1・9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチを OFF にします。
- ③ ▽/△キー操作でグループ番号を合わせます。

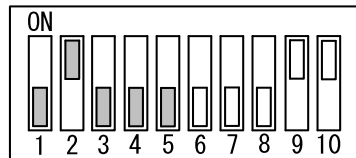


3. 中継設定

設定値：A/B（初期値：A）

本機と中継器の送受信周波数帯を変更することができます。本機が A なら、中継器には B が設定されます。通常は初期値の A でご使用ください。

- ① ▽/△キーを同時に押し、設定モードに移ります。
- ② 2・9・10 番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチを OFF にします。
- ③ ▽/△キー操作で中継設定を A または B に合わせます。

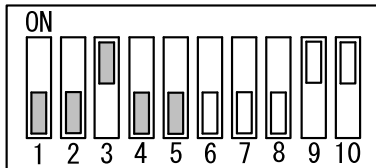


4. 中継接続手順

設定値：オン/オフ（初期値：オン）

中継動作の自動接続手順を解除し、接続タイミングを最適化する設定です。本機能をオフにする場合は、中継器と本機の設定を両方オフにしてください。

- ① ▽/△キーを同時に押し、設定モードに移ります。
- ② 2・9・10 番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチを OFF にします。
- ③ ▽/△キー操作で中継接続手順をオンまたはオフに合わせます。

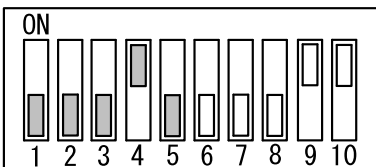


5. 中継ハングアップ

設定値：オフ/0.5 秒/1 秒/2 秒（初期値：オフ）

中継通話終了後に中継動作を継続する時間を設定できます。設定した秒数だけ中継動作を継続します。

- ① ▽/△キーを同時に押し、設定モードに移ります。
- ② 4・9・10 番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチを OFF にします。
- ③ ▽/△キー操作で中継ハングアップを合わせます。

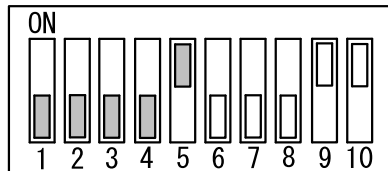


6. 中継アラーム

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

中継器から送信される中継動作終了の音を設定できます。

- ① ▽/△キーを同時に押し、設定モードに移ります。
- ② 5・9・10番スイッチのみをオンに、それ以外のスイッチをOFFにします。
- ③ ▽/△キー操作で中継アラームをオンまたはオフに合わせます。



21-3. 設定値送信

PTT キーを約 3 秒間長押しで「設定内容を無線通信します」が鳴り、ランプが赤色点滅し送信します。



設定値送信中に電源を切った場合や、送信時間制限が満了した場合「21-2.設定項目」の設定内容（1.～6.）が本機に反映されます。その後再度「21-1.設定モード」に入った場合は、反映されている設定内容が「21-2.設定項目」で引き継がれます。

注意

- 設定値送信前に電源を切ると「21-2.設定項目」の設定内容が初期値に戻りますのでご注意ください。
- 設定値送信中は誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。近くに強力な外来電波があると誤判定することがあります。
- 設定値送信中は電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。設定値送信を途中で停止したいときは電源を切るか、送信後約1分満了時に「ププ」音とともに設定値モードに移ります。
- 設定値送信中は本機のアンテナを上向きにした状態でおこなってください。

21-4. 中継器設定

- ① 中継器の電源を切ります。
- ② 本機の電源を入れ中継リモコンの設定モードに移ります。
- ③ 中継器へ送信する設定内容を準備します。
- ④ 本機の「21-3.設定値送信」を実行します。
- ⑤ 送信が始まったら速やかに中継器の電源を入れます(AC アダプターを AC コンセントに接続します)。設定用の信号を受信し始めます。
- ⑥ 設定内容の送信が終わると、本機のランプが緑色点灯し「プルル」音が鳴ります。
中継器は設定内容が自動的に切り替わり、中継器として動作します。
本機も自動的に通話モードに切り替わり、子機として使用できます。（ランプ：青色点灯）



自動的に通話モードに切り替わった場合は、「21-2.設定項目」の設定内容（1.～6.）が本機に反映されます。

注意

本機が連結中継モードの場合は先にリセット（初期化）してから、中継リモコンの設定モードに入ってください。

22. 故障とお考えになる前に

「故障かな？」と思われたら、まず以下の「処置」をお読みください。

イヤホン類や内蔵バッテリーなどが原因の不具合もありますので、必ずアクセサリも点検してください。設定の間違いなどはリセットをすると回復する場合がありますが、意図した設定まで初期化されるので注意が必要です。

またバッテリーの残りが少ないとまれに誤作動することがあります。充電してください。

症状	原因	処置
電源が入らない	主電源が入っていない	10 番スイッチをオンにしてください
	バッテリーが切れている	充電してください
ランプが点かない	バッテリーが消耗している	充電してください
音が出ない 受信できない	音量が低すぎる	適切な音量にしてください
	相手とチャンネルが違う	同じチャンネルにしてください
	相手とグループ番号が違う	同じグループ番号にしてください
	相手と距離が離れている	通信距離を目安に送信してください
送信できない	電波を受信している	電波がなくなってから送信してください
	3 分通信制限を超過している	[PTT]キーを離して 2 秒経過後に送信してください
送信音声相手が相手に聞こえない	マイクの選択が間違っている	正しい向きにマイクを選択してください
充電できない	充電端子が汚れている	充電端子の汚れを拭き取ってください
	バッテリーが劣化している	バッテリー交換を依頼してください

23. オプション一覧

EDC-207A	シングル充電器セット(AC アダプター付属)
EDC-207R	連結充電スタンド (連結ケーブル付属)
EDC-208R	5 口充電スタンド
EDC-162	連結用 AC アダプター (EDC-208R 5 口充電スタンドに必要)
EME-66B	カナル型ツイストコードイヤホン (ケーブル長: 約 50cm)
EME-67B (黒色)	耳かけ型ストレートコードイヤホン(ケーブル長: 約 50cm)
EME-67W (白色)	耳かけ型ストレートコードイヤホン(ケーブル長: 約 50cm)
EME-68B	耳かけ型ツイストコードイヤホン(ケーブル長: 約 50cm)

24. 生産終了品に対する保守期限

生産終了後も 5 年間は補修用部品を在庫しています。

不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

25. 定格

送受信周波数	L チャンネル	421.8125～421.9125MHz 422.2000～422.3000MHz 440.2625～440.3625MHz
	b チャンネル	421.5750～421.7875MHz 422.0500～422.1750MHz 440.0250～440.2375MHz
制御チャンネル	422.1875MHz、421.8000MHz、440.2500MHz	
電波形式	F3E (FM)、F1D (FSK)	
送信出力	10mW、1mW	
受信感度	-14dBu (12dB SINAD)	
音声出力	50mW 以上 (8Ω負荷)	
通信方式	単信、半複信	
定格電圧	DC3.7V(リチウムイオンバッテリー 700mAh)	
消費電流	送信時：約 65mA(High)、約 55mA(Low) バッテリーセーブ時：約 20mA 受信定格出力時：約 100mA	
動作温度範囲	-10℃～+50℃ (充電：0℃～+40℃)	
寸法 W×H×D	41.6mm×52.6mm×17.2mm(突起物除く) アンテナ長：約 22mm	
質量	本体 (内蔵バッテリーを含む) 44g 本体 (内蔵バッテリー、クリップを含む) 50g	

- 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは実物と字体や形状が異なったり、一部の表示を省略したりしている場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。

26. メンテナンス

本体とイヤホンは家庭清掃用ブラシでほこりを落とし、清潔な乾いた布で乾拭きしてください。特にイヤホンケーブルは汗などでぬれたら乾拭きしてください。水分侵入は基板を腐食して修理できなくなります。汚れたスポンジやゴムは衛生面からも定期的に新品に交換してください。



Radio Communication Solutions

株式会社 ジャパンエニックス
JAPAN ENIX CO.,LTD.

- ☐ 東京本社 03-5715-2351
- ☐ 関西支店 06-6583-7700
- ☐ 名古屋営業所 052-908-1440
- ☐ 九州営業所 092-432-9077
- ☐ 札幌営業所 011-733-6120
- ☐ 仙台営業所 022-290-9381



◀各住所は
こちらから

<https://www.jenix.co.jp/>

アルインコ株式会社 電子事業部

〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361

無線・電源 機器のアフターサービスに関するお問い合わせは
お買い上げの販売店またはフリーダイヤル ☎ 0120-464-007

全国どこからでも無料でお客様のご相談窓口につながります。

受付時間：月曜～金曜 AM10-12 / PM 1-5 (土日祝日と休業日を除く)

お問い合わせフォーム：「アルインコ 電子 お問い合わせ」で検索してください

Copyright Alinco, Inc.

PW0041

FNFI-NL